興奮再現。

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ¥43,800

持ち運んで楽しむか



クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W(2.1W＋2.1W、EIAJ/DC)のパワー。12cmウーハー(中低音域用)と3.5cmツイーター(高音域用)採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき(別売り APS-80)使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子(R用、L用各1個)つき

ステレオ パディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V(単1×6) AC：100V 50/60Hz カーアダプター(別売りD-70) ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12(cm) ●重さ 5.0kg(乾電池含む)

システム パディスコ

組んで楽しむか



パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー(APS-80)の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー(HT-320)を接続すればレコード音楽も楽しめます。(MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要)

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800(レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です)

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

HITACHI

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

前号既報のとおり、今年はモスクワオリンピックの前年である。中国のＩＯＣ復帰問題で明けた今年、この問題はまだまだ予断を許さず、揺れそうだが「モスクワのハンドボール会場に中国が現われる道が開かれる可能性は薄い」というのが消息通の見方。

いずれにしても、当面の難関は11月に開かれる予定のアジア大陸予選。男女ともにモスクワ行きの切符を争うライバルのうち、最も強豪と思われるのが、お隣の国〝韓国〟。

女子は昨年6月の第7回世界選手権アジア予選で韓国に連敗、世界選手権行きを失っているだけに、今秋の戦いはまさに雪辱戦。男子も「韓国はこのところ、めっきり力をつけてきている」として、警戒をゆるめてはいない。

今年に入って強化筋の〝モスクワ切符奪取作戦〟もようやく軌道に乗り始めた。既報のとおり、世界の女王・東ドイツの金メダルメンバーをそっくりそのまま招待することに成功（関連記事1～3頁）し、男子も、世界のチャンピオン国・西ドイツへの遠征計画（3月末～4月）が本決まりとなった。

盛り上げよう『モスクワへの道』

夏頃を目安に、さらにいくつかの国との交流を折衝中という。また、これは定期交流だが、来月には〝日韓対決〟の前哨戦ともいうべき男女の日韓社会人交流が持たれる。（関連記事14、15頁）大変結構なことだ。

昨年マンハイム（西独）が来日するまで、何年間も全日本女子チームが日本のファンの前で試合をしたことがなかったとか、ＩＰＳ・プラハ（チェコ）の来日戦を見て「あァ全日本男子ってこんなチームなのか」とファンが思っているようではだめだ。

子供たちが全日本選手の名を口にし、ファンが全日本チームの具体的なイメージを持つことができてこそ、モスクワ行きを応援しようというムードがでてくるものといえよう。

「合宿の公開」など好企画も出てきた。これら全日本選手とファンの心の絆（きずな）作りを目指す企画をどんどん打ち立てて、ミュンヘン前、いやそれ以上の気運をファンと一体になって盛り上げようではないか。（Ｙ）

池田全日本顔見せ

女王・東ドイツと2試合

一月三十日、日本協会は来日する東ドイツと対戦する全日本女子チームのエントリーメンバーを下記のように発表した。

現在世界の女王の座にある東ドイツは2月9日～17日まで来日、全日本女子チームと、10日（駒沢屋内球技場・東京）と15日（名古屋市体育館・愛知）に2度対戦する。（このほかジャスコらと2戦の予定。関連記事2～3頁）

全日本女子チームが日本のファンの前に姿を見せるのは昨春3月のマンハイム（西独）戦以来約1年ぶり。この間、6月の世界選手権アジア大陸予選で韓国に敗れたあと、鈴木義男前監督から、池田鉄哉監督にタクトが手渡され、その池田新生全日本の、初顔見せがこの東ドイツ戦。

強化筋は「ひとりでも多くの選手に経験を」と十五名エントリーのうち主力9名を除いて、一戦目と二戦目で、7名ずつが入れ代わるシステムをとった。

また発表されたエントリーメンバーのうち寺西、矢部、則武、川村、植田、山村の6名は、ヤングナショナル所属の選手である。これは、全日本選手（モスクワ五輪候補選手）のうち、紀野、桑原、橋ノ口（以上立石電機）金田（ジャスコ）らが体調をくずしてメンバーからはずれていることもあるが、全日本女子が若手の台頭を熱望していることの、露れと見てもいいだろう。

自らも〝速攻男〟と異名をとり〝走りで押せ押せ型〟のチーム作りを得意とする池田監督（日本ビクター監督）のことだ。東ドイツに日本の〝足〟がどこまで通じるか試してみる腹づもりのようだ。

全日本女子代表チームメンバー

▽第1戦（2月10日・東京）

（ＧＫ）山本福代（ブラザー）井村文光子（立石電機）

（ＦＰ）穂積美保子、小島和子、染谷保子、伊藤珠美（以上日本ビクター）松下仁美、河田栄子、若田貴美子（以上ジャスコ）島田さゆり、吉田良子、山井マチ子（以上日立栃木）中川しげみ（ブラザー）清水みよ子（ムネカタ）寺西富美枝（東京重機）

▽第2戦（2月15日・名古屋）

（ＧＫ）山本福代、矢部登茂子（ジャスコ）

（ＦＰ）中川しげみ、川村豊子、則武美智子、植田和子、山村雅子（以上ブラザー）加藤美起子（ビクター）穂積美保子、小島和子、染谷保子、松下仁美、河田栄子、島田さゆり、千歩康子（北国銀行）

「ハンドボール」54年2月号（第171号）目次

【表紙写真】第19回全日本男子実業団選手権決勝・湧永薬品－大同特殊鋼でシュートを放つ湧永の生駒

㈱スポーツイベント社 提供

世界の女王・東ドイツのプロフィール（2月9日来日）

世界の女王が襲来する。日本協会は、本誌前号速報のとおり、昨冬の世界選手権で史上初の2連勝3度目の優勝を遂げた東ドイツ女子ナショナルチームを招き、2月10日から15日まで国内で4試合を行なう。来日する主力選手の横顔を探ってみた。

「2連勝3回」の主役ズラリ

まず、来日メンバーの優勝歴を紹介しておこう。

◇一九七一年の優勝、リヒター、クレチュマル、ウーリッヒ、GKツオーバ、GKブロッシュ（現姓クエーネルト）。

◇一九七五年の優勝、リヒター、クレチュマル、ウーリッヒ、ティーツ、クラウゼ、マッツ、ロストツオーバ、GKブロッシュ。

そして、昨冬、三度目の優勝である。

リヒター、クレチュマル、ウーリッヒ、ツオーバ、ブロッシュの5選手は、3度の優勝にすべて貢献しているわけで、女王中の女王ということができよう。

各選手は、「初出場で初優勝」という快挙をとげたわけだが、当時リヒターは25才、クレチュマル23才、ツオーバ23才、ブロッシュ22才、ウーリッヒはなんと17才だった。

彼女たちの勇名は、ワールド・タイトル獲得で、一躍、ヨーロッパ全土に響きわたり、これ以後、東ドイツ女子行くところに、その名前を見ることができるが、まさかリヒター、クレチュマル、ツオーバといった選手たちが、現在までプレーをつづけ、3度優勝のヒロインになるとは、誰も想像し得なかった。

この背景には、東ドイツの、というより社会主義国家のスポーツ選手に対する〝環境〟を見逃すわけにはいかないが、それにしても第一線競技年令の長さは、驚くべきものがある。

現在の東ドイツ女子チームを評して、あるヨーロッパのハンドボール記者は、「どんな局面でも顔色をかえないチーム」と表現したが主力選手のキャリアをみれば、それは、じゅうぶんに肯ける。

大黒柱リヒター、クレチュマル

さて、一九七一年の初優勝以来このチームを支えてきた大黒柱として、リヒター、クレチュマルの両選手をあげることは、どなたも依存はないだろう。

昨冬のベストセブン・**リヒター**（TSC・ベルリン）は十七才で本格的なハンドボール活動に入ったが、百メートル12秒台の俊足は陸上か、ハンドボールか迷った時代もあるというが、二十才でナショナル入り、その絶妙なフットワークと、切れ味鋭いシュート力、機敏なパス感覚で、あっという間にレギュラーとなった。

それまでの、世界女子ハンドボールは、十一人制の名残りをとどめるルーマニアのパワータイプが主流だったが、それを。女性スポーツ本来の〝美しさ〟に変えたのは、リヒターの出現にあると絶讃するライターもいるほどだ。

右腕だけではなく、左からのシュート力も強く、過去、公式戦で叩き出した得点は761という。

対照的なのは主将の**クレチュマル**（SC・ライプチヒ）。

13才で、地域の少女チーム代表としてスパルタキアード（東ドイツの青少年全国体育大会）に出場早くも目立った選手といわれる、ハンドボールを本格的に始めたのは、その2年前、11才の時。18才でナショナル入りを遂げた。

現在は、主にパッサー、ゲームメーカー的役割だが、リヒターをしのぐ771ゴールが示すように、その豪快な攻撃力は、相手ディフェンスを、つねに恐怖におとしいれている。

一九六九年。現監督のビーター氏と結婚、世界ではめずらしい監督―主将夫婦で、間に長男ステファン君（6才）がいる。

公式国際試合出場211回は、ハンガリーの名GKブイドソが引退した今、世界最多記録であろう。

リヒター、クレチュマル両選手の動きをみるだけでも、今回の招待は、意義がある。

競泳から転向のクラウゼ

地味な存在だが**ウーリッヒ**（SC・ライプチヒ）も、すでに3個の金メダルを手にする名プレイヤーだ。

前述のとおり17才で七一年の世界選手権にデビュー。ディフェンスが主だが、東ドイツベンチは、彼女の攻撃力も、高く評価しており、25才という年令からみて、将来は、東ドイツの要（かなめ）となろう。

異色の存在は**クラウゼ**（TSC・ベルリン）。

幼女時代から、将来を約束された水泳選手で、名門ディナモ・ベルリンに入り、めきめき才能を伸ばした。

そして、東ドイツが初めて「国」として参加したメキシコ・オリンピックの代表に選ばれ、四百メートル自由形リレーの第2泳者で銀メダルを獲得したのだ。

帰国後、彼女は突然、ハンドボールへの転向を表明、所属もTSC・ベルリンに変えた。

転向の理由が何であったか、来日したら、ぜひ聞きたいところだが、ハンドボールでも、抜群のセンスを発揮、七五年ナショナル入り、モントリオール・オリンピック代表に選ばれるという偉業を達成した。

ご承知のように、この時、東ド

―スケジュール（全4戦）―

▽来日　2月8日午前10時40分、ソ連航空579便（成田）

▽第1戦　対全日本①。2月10日午後3時30分・駒沢屋内球技場。

▽第2戦　対立石電機。12日午後3時・京都府立体育館。

▽第3戦　対ジャスコ、大和銀行連合軍。14日午後6時30分・大阪市中央体育館。

▽第4戦（＝最終戦）　対全日本②。15日午後6時10分・名古屋市体育館。

イツは銀メダル。クラウゼは、二つの競技で銀メダルという史上初の快挙をとげた。現在、もっとも得意とするプレーに「スカイプレー」があるという。

ご主人もナショナルプレイヤーというロスト（SC・ライプチヒ）は、このチームになくてはならぬポストプレイヤー。

ポスト攻撃は、東ドイツのお家芸、得意とするプレーの一つだがこれも、ロストという名手がいてこそ成り立つ。

ロストとよくコンビを組むのが**ティーツ**（TSC・ベルリン）。

9才でハンドボールをはじめ、リヒターにつぐ俊足とフットワークを誇る。その飛びこみシュートは華麗で、昨冬のベストセブンでもある。〝世界の技〟の持ち主の一人だ。

ベテランGKと新鋭FP

GK陣の厚味も、FPに劣らない。

レギュラーは、すでに20年余のキャリアをもつ**ツオーバ**（SC・ライプチヒ）控えのブロッシュ（SC・エムポール・ロストック）とともに、七一年以来変わらない。FPの信頼も厚いが、それというのも、この二人、相手攻撃陣のクセを読みとる力が抜群だからだ。

ブロッシュは、昨年くれ結婚。現姓は**クエーネルト**。

東ドイツ女子来日予定メンバー

・団　長　H・レンニング
・監　督　P・クレチュマル
・コーチ　K・フランケ
・ドクター　Dr・ヒアルゼ
・マッサージャー　M・ミューラー
・選手

GK	H・ツオーバ	32才	173cm	147回
	H・クエーネルト	31	175	105
	L・ルドルフ	29	166	19
FP	K・リヒター	32	169	206
	(主)W・クレチュマル	30	168	211
	R・クラウゼ	29	175	105
	M・ティーツ	26	168	127
	C・ロスト	26	171	90
	P・ウーリッヒ	24	166	173
	E・マッツ	23	176	110
	E・ランゲンベルグ	23	172	14
	C・ヴンデルデッヒ	22	171	49
	B・ハイニッケ	21	170	31
	S・ロエーター	21	188	54
	C・エルベ	19	172	12
	K・クルーガー	19	183	34

・右欄回数は公式国際試合出場回数＝本誌調べ

第三GKは**ノスナゲル**（SC・ライプチヒ）またはルドルフ（SC・ライプチヒ）。いまのところベテラン・ルドルフ来日の色が濃いが、スナゲルは24才、182cmの大型である。

ところで、東ドイツにしても、ソ連にしても、チーム構成をつねにベテラン―中堅―新鋭に配分、現在と将来を考えている。

東ドイツのあすを荷う選手は多士済々。

前述のウーリッヒをリーダー格に、**マッツ**（TSC・ベルリン）**クルーガー**（ASK・フォルヴァルト・フランクフルト）、**ロエーター**（SC・エムポール・ロストック）、**ランゲンベルグ**（SC・ライプチヒ）、それにSC・マグデブルグの新鋭トリオといわれる**エルベ**、**ヴンデルリッヒ**、**ハイニッケ**など、いずれも個性豊かだ。

マッツは、七五年の優勝時、20才の若さで7試合にフル出場、14ゴールをマーク、攻撃に比して、守りに難があるということだが将来は間違いなく、世界を背負う一人となろう。昨冬の世界選手権ではリヒターの40点につぐチーム内二番目の21ゴールをマーク。

クルーガーは、一昨年の世界ジュニア選手権でデビューした大型新人だが、昨シーズン、東ドイツリーグで、先輩を尻目に得点王に輝やいたのだからすごい（121点＝18試合）。

個人得点レースでクルーガーに次いだのが、ロエーター188cm。昨冬の世界選手権最長身選手で、クレチュマル監督は現在のクレチュマル・リヒターの〝KR砲〟からやがてクルーガー・ロエーターの〝大型、新KR砲〟になる日を夢みている。

エルベも、デビューは世界ジュニア。ホームクラブのSC・マグデブルグは、男子の強豪として有名だが、エルベらの新鋭トリオがこの日のまま成長すれば、SC・ライプチヒや、TSC・ベルリンを脅かすものになると、地元の期待が高い。

モスクワ五輪への第一歩

東ドイツの照準は、当然、来夏のモスクワ・オリンピックだ。

モントリオールで、絶対の本命といわれながら、ソ連に屈しており、「世界、オリンピック二冠」への野望は、いっそう強いものがある。

世界選手権連覇後、公式国際試合は、この日本遠征が初めて。つまり、モスクワへの第一歩となる

実力的には、過去4回の対戦（12―17、13―28、8―32、10―24で日本の4連敗）ではっきりしており、東ドイツは、今回のシリーズで、いくつかのメンバー構成を試みることになりそう。

とくに、クレチュマル監督の頭の中には「モスクワは新旧交代した布陣でのぞみたい」という構想があるようで、夫人のクレチュマルやリヒター、ロスト、ツオーバらには、第一戦を早く退かせたいようだ。

これに代わるシューターとしてマッツ、クルーガーの二枚看板を早く育てたいのが本音だろう。

マッツ、クルーガー、ウーリッヒ、エルベ、ロエーターらを中心とした〝モスクワ用布陣〟を日本戦で試してみるであろうことは十分に考えられる。

そうなれば、日本が食い下がれば食い下がるほど、東ドイツは金メダルメンバーを持続させるであろうし、その逆なら、東ドイツのテストタイムが長くなるというわけだ。

日本側のファイトしだい

日本側のメンバーは、一月末発表されたが（一ページ参照）、新生全日本のファイトしだいで、東ドイツが金メダルゲームをしてくれるかどうかが決まることになる。

日本が、東ドイツの実力を引き出すような食い下りを期待するとともに、東ドイツの〝戦いぶり〟にも、大きな興味がかけられる。

なお、団長のレンニング氏は、5年前、東ドイツ男子ナショナルの団長としても来日している。

湧永、大同の野望阻み優勝（8年ぶり2度目）

～全日本実業団選手権終る～

女子は日本ビクターが2連勝

第19回全日本実業団選手権は、男子が2月13日から15日まで大阪で、女子が1月26日から29日まで京都で行われた。

男子は8チームのトーナメントで行われ、国内のトップに立つ日本リーグ勢の〝一本勝負〟に興味が集ったが、大同特殊鋼(愛知)、湧永薬品（広島）が、やはり圧倒的な強味をみせ、5年連続して両チームによる優勝争いとなった。

大同には、48年度につづく4大タイトル独占の偉業のかかった一戦だったが、それを阻もうとする湧永の闘志はすばらしく、前半から攻めまくり快勝、8年ぶり2度目の優勝を飾るとともに、大同の「4冠王」、7連覇」をみごとに阻んだ。3位には日新製鋼（広島）が初進出。

一方、女子は、全日本総合選手権(前号既報)終了から1週間後の激突とあって、参加10チームとも、新たな闘志に燃えて、激戦がくりひろげられた。

緒戦いきなり、全日本総合決勝の〝再戦〟となったブラザー工業(愛知)×日本ビクター（茨城）は、ビクターの雪じょくへの気力が優り、ブラザーはあえなく敗退。余勢をかったビクターが、一気にタイトルを握り、2連勝を遂げた。

2位に大崎、日立らを破った北国銀行（石川）が食いこみ、注目された。

なお、第20回大会は、日本協会の年間スケジュールとのからみで早くも、今年5月、男子は名古屋、女子は甲府で開かれることが内定している。

男子（大阪）

▽1回戦（＝準々決勝）

大同特殊鋼(愛知) 29（14－7 15－4）11 三景（東京）

試合の行方は、大同にほぼ決まっているだけに、興味は三景がいかに立ち直りを見せ、巻き返すかにかかったが、いぜん、低迷から脱することができぬまま、押しまくられるにまかせた元気のない試合ぶりで、コートサイドを失望させた。

日新製鋼（広島） 22（13－9 9－10）19 三陽商会（東京）

第1日きっての好カードは、期待どおりの激しい点のとりあいになった。

しかし、日本リーグですっかり自信をつけた日新は、前半の優位も手伝い、後半、三陽の反撃にも余裕をみせた。三陽のチーム力向上が目立った。

本田技研鈴鹿（三重） 23（13－7 10－11）18 大崎電気（埼玉）

なんとか、低調を脱出しようとする大崎にとり、かっころの相手だったが、本田のパワーは、個人技をつなぎ合わせただけでも、かなりの破壊力があり、大崎は、後半、互角に持ちこむのが、やっとだった。

湧永薬品（広島） 39（21－7 18－9）16 自衛隊勝田(茨城)

大会前のトーナメント戦で5試合、しかも、その決勝戦が、この日午前中に組まれていた勝田は、なんと湧永戦は3日間の6試合目という強行日程。いかにスタミナと不屈の闘志を誇るといっても、立ち上りから疲れがのぞき、どうにもならなかった。

◇敗者復活・1回戦

大崎電気 25（10－6 15－10）16 三景

三陽商会 32（19－5 13－6）11 自衛隊勝田

日新製鋼、貧攻で自滅

湧永は本田を突き放す

▽準決勝

湧永薬品 26（13－4 13－11）14 本田技研鈴鹿

【本田】	得		【湧永】	得
柴田	0	GK	福井	0
細野	0	GK	今井	0
田上	4	FP	津川	3
佐藤	4	FP	松本	4
喜井	2	FP	穂積	4
豊岡	2	FP	戸田	2
矢野	3	FP	山本	2
高橋	0	FP	生駒	5
佐々木	0	FP	池ノ上	3
西田	0	FP	藤本	1
嶋林	0	FP	高橋	1
谷元	0	FP	原田	1
	15（0）	PT	26（1）	

（審・望月、島崎）

○…全日本総合で、異常なまでのエキサイトをみせた両チームだが、この日は、湧永が立ち上り、生駒・池ノ上のフレッシュコンビによる連取などあって、10分6－1と先行。20分には8－1と開く大味（おおあじ）な展開となり、スタンドの期待を裏切った。

本田は、後半、田上、矢野らで

どうにか攻撃がまとまったものの前半は、ディフェンスに練習のあとじゅうぶんな湧永の堅陣を突き破るだけの〃組織力〃がなかった。

湧永は、後半、しきりとメンバーの入れ替えを行うなどしたため序盤ほどの点差はあげられなかったが、両新鋭の安定もあって、全日本総合時より、はるかにパワーアップされ、翌日の大同戦が楽しめるデキを見せた。

大同特殊鋼 25（10—6 15—6）12 日新製鋼

	【日新】	得	【大同】	得
GK	三田	0	柳川兄	0
GK	筒本	0	大園	0
FP	脇若	3	松原	0
FP	下茂	1	花輪	5
FP	泉	3	柳川弟	2
FP	洞ケ瀬	1	蒲生	4
FP	吹上	1	藤中	2
FP	大庭	2	大原	5
FP	徳田	0	中井	0
FP	森	1	浦田	3
FP	湯中	0	中本	3
FP	高木	0	小野	1

（審・井上、新井）

25（1）PT（2）12

○…日新のダークホースぶりが発揮されたのは、前半20分まで。

いきなり泉のゴールで先行した日新は、そのあと大同に攻めこまれ、10分2—4とリードを許したが、すぐに11分森、12分大庭で同点。

13分大同は花輪の巧技でリードをキープしたものの日新も、PTで追いつき、20分大同8—6と先手をとってはいたが、予断できなかった。

ところが、日新は小さなミスと大同守備陣の立ち直りにあって後半13分まで24分間無得点というもろさを露わしてしまい、課題を背負いこんでの敗退となった。

大同は、日新にどんなに攻めこまれても、あわてることなく、落ちついた試合運びにベテラン揃いの〃味〃を感じさせた。

◇敗者復活・2回戦

三陽商会 23（10—7 13—15）22 大崎電気

日新製鋼 21（6—14 15—5）19 本田技研鈴鹿

○…敗者戦とはいえ、各チームとも、来シーズンのことを考えれば、おろそかにできぬ一戦、力がこもった。

三陽—大崎は、大崎の猛追で、もつれたが、三陽は、ピンチを乗り切るだけの地力が備わってきた。

もともと、個人技はなかなかのものがあったのだから、このチームとしてのまとまりは、新シーズンに期待を抱かせる。

日新—本田は、日新のまじめなチームカラーが、いかんなく発揮された試合だった。

前半8点差は、本田の実力からすれば〃安全圏〃のハズだが、後半、攻守に雑なプレーがつづき、そこを、日新に丹念につかれ、逆転を許してしまった。

日新の粘り、本田の不甲斐なさが際立った一戦である。

▽3位決定戦

日新製鋼 21（12—6 9—7）13 三陽商会

	【三陽】	得	【日新】	得
GK	田村	0	三田	0
GK	吉近	0	筒本	0
FP	関	3	洞ケ瀬	3
FP	坪子	1	泉	5
FP	金子	4	脇若	1
FP	稲木	1	大庭	4
FP	石原	0	徳田	3
FP	三上	1	吹上	3
FP	梅屋	2	下茂	1
FP	近森	1	森	0
FP	鵜沢	0	高木	0
FP	小倉	0	湯中	1

（審・望月、北岡）

21（4）PT（3）13

この大会を通して吹きあれた、〃日新旋風〃を集約したような試合が、この三位決定戦。

事実上の三位決定戦といわれた敗者復活二回戦の対本田技研戦で本田に逆転勝ち、日新は勢いに乗っていた。

かたや、三陽商会も、来季日本リーグへの踏み台にしようとはりきってのぞんだが、勢いに乗る日新のコンビプレーは、脇若を中心にして歯車がかみあい、三陽商会もつけいるスキがなかった。

三陽はディフェンスの甘さが目立ち、日新にエリア内に飛びこまれる失点が多かった。結局、前半で12—6と主導権を握った日新が大勝。

勝った日新、負けた三陽とも、ここまで勝ち抜けた自信を来季へのバネとしそうだ。

湧永、一年半ぶりの勝利

▽決勝戦

湧永薬品 13（7—3 6—5）8 大同特殊鋼

○…湧永の滑り出しは、鮮やかだった。

	【大同】	得	【湧永】	得
GK	柳川兄	0	福井	0
GK	大園	0	今井	0
FP	中井	1	山本	2
FP	蒲生	1	松本	1
FP	花輪	0	穂積	0
FP	柳川弟	1	津川	2
FP	大原	3	戸田	1
FP	中本	1	池ノ上	5
FP	松原	0	生駒	2
FP	藤中	0	原田	0
FP	浦田	1	藤本	0
FP	小野	0	高橋	0

（審・丸岡、新村）

13（1）PT（3）8

新鋭・池ノ上のロングで先取点、松本、戸田、山本のテクニシャンが二の矢、三の矢を立てつづけに放って8分4—0だ。

大同としては、全日本総合での大逆転があるだけに、この時点での劣勢は、あまり、気にとめていなかったかもしれないが、湧永は、この4点でも満足せず、なお、追加点を狙い、相手には1点も許すまいとする〃心の構え〃が加っていた。

9分PTで1—4とされると、まるで同点にされたかのような闘志をのぞかせて10分津川のロング11分PTで6—1。

大同は13分中井のカットインで2—6としたが、ここからは、まことに重苦しい展開に変った。

○…湧永のシフトは、当然のように「蒲生密着」。

大同もそれを承知での5人攻撃だが、湧永は、GK福井が冴えに冴え、ゴールを許さない。

一方、湧永の攻撃も、守備への精力集中からか、11分以降、滑らかさを欠き、追加点が止まった。

スコアボードが動いたのは28分大同・大原のサイド攻撃が成って3—6、しかし、湧永も前半終了直前、池ノ上が豪快に決めて7—3。奪われれば奪いかえす、湧永のこの日の気力を示す一投といえた。

後半は、いっそう粘りつくような攻守の応酬となり、両横綱激突にふさわしい展開になったが、湧永は、当り屋・池ノ上が、1分、6分連続ゴール9—3としたのがなんとも大きかった。

大同も懸命に追い討ちをかけるが、湧永の慎重なプレーは崩れず15分10—5、20分11—5、25分12—5と差は拡がる一方。残り2分5—13から、連続3ゴールをあげたものの遠く及ばず、湧永の気力は、みごとにライバル・大同の四冠独占を阻むとともに、一昨年の日本リーグ(前期)以来9戦目で、大同から勝利をあげた。これまでの敗戦を一気に取り戻すに足る完勝といってよい。

★ベストセブン

・GK 福井 秀人(湧永)①
・FP 穂積 豊彦(湧永)④
　津川 昭(湧永)②
　松本 義樹(湧永)①
　蒲生 晴明(大同)②
　花輪 博(大同)③
　柳川 実(大同)②

○内は受賞回数

健闘の北国銀行3位

女子（京都）

▽1回戦（2試合）

東京重機（東京）11（4―5 7―2）7 ムネカタ（福島）

1点をリードされていた重機は後半10分PTで6―6としてから急に元気づき、沖山の大活躍で一気に主導権を振り、快勝した。

ムネカタは、清水のシュート力を軸に、巧く試合を進めていたが反発力に欠けた。

北国銀行（石川）10（4―0 6―1）1 大和銀行（大阪）

めっきりパワーをつけた北国が貫禄じゅうぶんな試合ぶりで、大和を寄せつけなかった。

大和は、動く割に、効果が少なく、北国ディフェンスを、乱すだけの〝戦術〟に不足していた。

このあたりを一工夫すれば、好素材が多いだけに、返り咲きの日本リーグでも期待できよう。

▽準々決勝

日本ビクター（茨城）9（7―3 2―4）7 ブラザー工業（愛知）

○…つい一週間前、全日本タイトルを争った両者。

ブラザーには女王としての権威があったし、ビクターとしてはリーグ・クイーンとしての意地があった。

【ブ工】		得
GK	山本	0
	屋比久	0
FP	岩井	0
	則武	0
	木下	0
	平井	0
	宮木	1
	中川	1
	植田	1
	川村	0
	山村	4
	岡山	0

【日ビ】		得
GK	鈴木	0
	塙	0
FP	加藤	0
	穂積	2
	小島	1
	斉藤	2
	池田	4
	染谷	0
	伊藤	0
	岩城	0
	寺村	0
	村上	0

（審・狩野、藤本）

9（4）PT（3）7

ヨーロッパのプロサッカーではリーグとトーナメントの勝者で特別カードを組み、これを〈スーパー・カップ〉と呼んで、大変な人気を集めるが、この試合は、期せずして、そうなった。

○…闘志がラフなプレーを招いて、前半10分までに5本のPT、ビクターは、このうち3本を決めブラザーは1本。その優劣がスコアにも表れて5―2とビクター優勢で進んだが、ブラザーは15分山村がなだれこみ3―5、反撃の構えをととのえた。

しかし、ビクターは、一週間前の失敗にこりて、ディフェンスを中央部に小さく固め、ブラザーの走りこみを許さず、なんと、試合終了まで1本もフィールドゴールを許さなかったのだから、すごい。

ブラザーの守りも、けして悪くはなかったが、前半終了間ぎわ、斉藤、小島に割りこまれ7―3とされたのが痛く、後半も2点（うちPT1）を許しただけだったが、あまりにも攻撃の展開が拙く、ビクターペースにはめられたまま、押し切られた。

日立栃木（栃木）16（6―4 10―3）7 立石電機（熊本）

前半の接戦から一転、後半は日立がいきなり島田と荒木で5点連取、11分11―4と開いて、大勢を決めた。

立石は、桑原の負傷退場もあったが、攻撃の波があまりにも荒く、前、後半各一度15分間無得点というポケットがあっては敗戦も仕方なかった。

ジャスコ（三重）26（12―3 14―8）11 東京重機

5分折口のベテランらしい巧技で勢いよく飛び出した重機だったが、そのあとは、当りの激しいジャスコの守りを攻め切れず、守っても、スピード豊かな相手の攻撃陣に振りまわされて15分8―1、早々と勝負がついてしまった。

北国銀行 8（5―1 3―6）7 大崎電気（埼玉）

前半のリードをはき出したばかりか7―6と逆転まで許した北国は、残り5分中山でともかくタイ（7―7）。終了寸前のPTを、この大会を最後に退部する山際が鮮やかに決めてサヨナラ勝ち。好ムードだった大崎は悔やみ切れまい。

◇敗者復活・1回戦

立石電機 15（8―3 7―7）10 ムネカタ

ブラザー工業 21（14―1 7―10）11 大和銀行

▽同2回戦

立石電機 14（6―4 8―2）6 大崎電気

ブラザー工業 24（7―6 17―5）11 東京重機

4試合の結果は順当。大崎が、復調の兆をのぞかせているのが目についた。

ブラザーは、重機に食い下られたが、後半、奮起してねじ伏せた。

日本ビクター逃げ切る

▽準決勝

日本ビクター 15（7―6 8―8）14 ジャスコ

【ジャ】		得
GK	久保	0
	矢部	0
FP	松下	5
	平田	0
	河田	3
	林	0
	金田	2
	若田	2
	横山	2
	鈴木	0
	辻本	0
	山本	0

【日ビ】		得
GK	鈴木	0
	塙	0
FP	加藤	3
	穂積	3
	小島	1
	池田	5
	斉藤	0
	染谷	3
	伊藤	0
	寺村	0
	高橋	0
	村上	0

15（4）PT（3）14

○…好試合だった。10分3―4とされたジャスコは、目のさめるようなワンパス速攻を3本成功させて6―4とした。

逆に劣勢に立たされたビクターは、17分加藤で5―6、さらに2本のPTを池田が射ちこんで再逆転した。

後半、ジャスコは7―8からPTと河田で9―8、その先行を16分12―11まで持続させたが、ビクターは17分染谷の速攻2本などで

14—12と、三たび先手をとった。

粘るジャスコは20分のPTで13—14、残り5分にすべてがかかったが、ビクターは23分加藤が独走して15—13、これで一息つき、ジャスコの反撃を24分20秒の1点におさえて逃げ切った。

北国銀行 11（5—3 / 6—4）7 日立栃木

○…波乱といえた。1試合だけだが、この大会での日立の試合ぶりは、なかなか鋭い。

ところが、北国は3分PTで先行してから、たえず追いつかれながらも、つねに先手々々ととった

得	【北国】		【日立】	得
0	酒井	GK	寺沢	0
0	高橋	GK	斉藤	0
2	中山	FP	山井	0
2	庄田	FP	島田	6
0	本田	FP	水上	1
5	千歩	FP	吉田	0
0	木戸	FP	荒木	0
1	山際	FP	大輪	0
1	八木	FP	箕輪	0
0	西出	FP	山戸	0
0	坂	FP	毛塚	0
0	木内	FP	大高	0
11	（1）	PT	（1）	7

（審・栗山 大原）

粘りが、日立のリズムを狂わせた

日立は、後半8分4—5とした時、北国の攻撃が鈍っていただけに、ここで、もう一押しをするべきだったが、水上が負傷で退くなどあり、ならなかった。

逆に、ここを乗り切った北国は8分八木、9分千歩で7—4、11分日立に1点を返されたが、13、16分庄田の巧技で9—5、一気に〝勝ち〟への態勢を固めた。

日立は、島田のロングで追いかけたものの、PTの失敗などから20分7—10で得点が止まり、北国は23分千歩がダメ押し、決勝へ初進出を決めた。

◇敗者復活・3回戦

日立栃木 17（6—6 / 8—8 / 2—0 / 1—0）14 ブラザー工業

ジャスコ 25（12—8 / 13—3）11 立石電機

〝乱立時代〟と呼ばれるだけあって、敗者戦ながらも激しい攻守のわたり合いで、見応えがあった

ジャスコ×立石は、前半こそ、立石の健闘でせり合ったものの、しだいに、ジャスコの地力が試合を支配、最後は、順当な結果となった。

それに引きかえ日立×ブラザーは、ブラザーが、以前の悪いクセを出してしまい。粘りのないプレーを繰り返しているうちに、延長戦へ誘いこまれ、気力をみなぎらせる日立に攻め崩されてしまった

女王の座についてから一週間、

□…全日本実業団選手権の焦点は、男女とも＜ナンバー・ワンの座奪還＞にあった。

つまり、本命にあげられていた男・大同特殊鋼、女・ブラザー工業の牙城を、どこのチームが攻め落とすか、だ。

その期待が、男女いずれも実現したのだから、シーズンのしめくくりとしては、申し分のない盛りあがりになった。

□…特に男子は、もう2年近く大同に勝てなかった湧永薬品が、完ぺきに近い戦かいぶりで、ライバルを引きずりおろしたのだから圧巻といえた。

立ち上り4—0の優劣、明暗が最後まで持ちこまれただけに、執念を燃やしつづけてきた湧永・市原則之監督は、むしろ拍子抜けしたような感じだったが、「このままで済ませる大同ではない」と思いつづけての60分間と〝緊張の勝利〟を強調した。

それに、「全日本総合でのデキから生駒のマークは固いとみたので、池ノ上にきょうはかけた」という〝策戦の勝利〟もあった。

〜執念みせた〝挑戦者〟の勝利〜

□…一方の大同・中浜大輔監督は、「ここまでやられると、かえってサッパリ。あとに後悔が残らなくていい」と苦笑したが、四冠への野望達成に、闘志満々だっただけに、無念さはかくせない。

「来シーズン、また出直して挑戦します」といって会場をあとにしたが、湧永×大同の対決は、白熱の度をいっそう加えながら、新シーズンを迎えることは、間違いない。

□…女子の日本ビクター・池田鉄哉監督の〝決勝戦〟は第1日だった。

一週間前の全日本総合決勝で、押し気味の試合を持っていかれたブラザー工業といきなりの顔合せ。

「選手も今回の対戦の意味は充分判っている」といいながら、監督自身も、久々に燃えての一戦であった。

□…「ブラザーに勝つことばかりで北国さんに危うくやられるところでした」と、大会全般の試合ぶりには不満足。

選手たちも「これが、全日本総合なら、なお嬉しいのだけど…」と、一週間前を、いまだに悔やむ。

しかし、見る側にとっては、優勝チームの固定化は、少しもありがたくない。

つねに、王座の座、女王の椅子の奪い合いがあって興味をそそれるのだ。

その意味で、湧永、ビクターがチャレンジャーに徹して戦った姿勢は、スタンドの好感を呼び、次への期待を、いっそう高めることになった。さて、次の戦い（第20回全日本実業団）は、もうすぐそこ。三カ月後の五月である。

追われる立ち場の試合の厳しさをブラザーが体得したとしたならばこの敗戦は薬となろうが、そうでなければ、全日本総合の優勝は、フロックといわれかねない。

▽3位決定戦

ジャスコ 23（12―8 / 11―4）12 日立栃木

得	【日立】		【ジャ】	得
0	寺沢	GK	久保	0
0	斉藤	GK	矢部	0
5	島田	FP	松下	10
1	山井	FP	金田	1
2	荒木	FP	河田	5
2	吉田	FP	若田	1
1	大輪	FP	平田	0
1	箕輪	FP	横山	2
0	山戸	FP	辻本	1
0	毛塚	FP	林	0
0	水上	FP	鈴木	1
0	小根沢	FP	山本	2
12	(0)	PT	(0)	23

（審・吉田、福井）

▽決勝戦

日本ビクター 10（4―4 / 6―3）7 北国銀行

得	【北国】		【日ビ】	得
0	酒谷	GK	鈴木	0
0	高橋	GK	塙	0
0	山際	FP	加藤	0
0	庄田	FP	穂積	4
2	中山	FP	池田	2
0	本田	FP	小島	4
2	八木	FP	斉藤	0
2	千歩	FP	染谷	0
1	木戸	FP	伊藤	0
0	崎田	FP	岩城	0
0	坂	FP	寺村	0
0	木内	FP	村上	0
7	(0)	PT	(0)	10

（審・狩野、藤本）

○…初顔合せとはいえ、日本リーグなどで、互いの手の内は承知している。

ビクターにとって警戒すべきは北国の上り調子、勝運だった。



女子決勝は日本ビクター（攻撃）×北国銀行の初顔合せで争われた。（スポーツイベント提供）

新進チームとはいえ、ほとんどのメンバーが、高校時代「優勝」を経験している。ましてや一本勝負、北国に勝機も、という前評判さえとんでいた。

その意識がビクターにのぞいたのは、前半10分3―1、21分4―2とリードしたあとなのだから、ボールゲームというのは面白い。

○…特に、前半終了間ぎわのビクターは4―2のリードにもかかわらず、プレーが縮み、23分中山24分15秒木戸に射たれて、あっさり同点とされたばかりか、後半2分八木に先行のシュートを許すありさまだ。

一方の北国はこうなると押せ々々ムード。先行を許しても、すぐに追いつける、という自信がプレーにみられ19分7―7と互角。

ビクターは、加藤が足のけがで本調子ではなく要所のPTを北国GK酒谷に掴かれるなど、文字どおり悪戦苦闘で、残り5分に、不安のカゲさえ感じさせたのだが、20分36秒小島で8―7のあとそれまで沈黙していた穂積の巨砲がにわかに火をふきはじめ、23分、24分20秒連続ゴール、善戦する北国を突き放した。

穂積は、このところ、こういった苦しい場面でシュートを決める力が出てきた。ビクターにとっては、〝ここぞ〟というケースで点を取れるようになった穂積の存在は来季からのカギとなりそう。

第二エースから本当のエースへ成長を期待される穂積だ。

北国で目立ったのは、回りこんでくるスピードが豊かな八木。その動きがチームにも溶けこんで、得点力も出てきた。

千歩にフェイント力がついてきたのも光る。

さらに、今季かぎりでチームを去る山際が、相変わらず、よくチームをまとめていたのが印象的。

それにしても北国の試合ぶりはみごとだ。

日本リーグ後期から、じわじわと、〝社会人の力〟を備えてきたことは明きらかだったが、ここまで戦かうとは、想像し得なかった北国の抬頭は、来シーズンの女子界を、いっそう混とんとさせる期待を高めた。

★ベストセブン

・GK　鈴木はる子（日ビ）①
・FP　加藤美起子（日ビ）③
　　　穂積美保子（日ビ）②
　　　松下　仁美（ジャ）④
　　　島田さゆり（日立）②
　　　中川しげみ（ブエ）①
　　　千歩　康子（北国）①

新発売「ハンドボールスペシャル」

世界を制したスペシャル・ラバーシェルソールとは!?

●adidasは世界のスポーツシューズ総合メーカーです。●adidasの3本線はオリジナルです。

ヒールカウンター



Napoli

3155ナポリ
(赤×白) ¥7,500
●モデル「アテネ」の色違い



Athen

3150アテネ
(青×白) ¥7,500
●ベロアレザー甲皮
●シェルソール



3本線



■ベロアレザー甲皮。つま先、かかと強化。
■スペシャル・ラバーシェルソールは、3つの吸盤とストップ、回転グリップ、各機能をもつ3ゾーンにわかれ、床を正確に、そして安定感ゆたかにとらえ、その結果、あなたは、スピードとパワーに乗った大胆なプレーを、狙い通りに決められます。また、このソール構造は、関節への衝撃からくる傷害を防ぎます。
■つま先部には、9個の通気孔があり、靴内の熱気からくる疲れを抑えました。靴舌にも通気孔を採用。
■足首、かかと、靴舌に、はきごこちを高めるパッドを採用。

Handball Special

(青×白) ¥19,000



adidas®

すべてのスポーツマンに
3本線のNo.1感覚を。

●お求めはadidas特約店で。


総代理店  兼松江商株式会社
発売元  兼松スポーツ用品株式会社 
〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431
〒101 東京都千代田区内神田1-11-13〈橋本ビル〉 ☎03-295-5611

自衛隊勝田，丸善石油下津破り初優勝

第10回全国実業団トーナメント（男子のみ）は，3月11日から3日間，大阪で全国の代表32チームが集まり行われた。

その結果，自衛隊勝田（茨城）が3日間5試合の強行日程をみごとに乗り切り初優勝を飾った。自衛隊チームが一般チームとの混合の全国大会で優勝したのは史上初。

第10回全国実業団トーナメント

東京重機、緒戦で敗る

▽1回戦

- 新日鉄大分（九州・大分） 15（8－5, 7－7）12 東京重機（前年度優勝・東京）
- 日本碍子（東海・愛知） 23（11－10, 12－11）21 川崎重工（近畿・兵庫）
- 三井石油化学（中国・山口） 33（17－4, 16－4）8 カネカ（近畿・兵庫）
- 日鉄建材（近畿・大阪） 13（6－2, 7－7）9 丸善石油千葉（関東・千葉）
- 丸善石油松山（四国・愛媛） 19（9－6, 10－5）11 住友銀行（近畿・大阪）
- 金沢市役所（北信越・石川） 28（14－5, 14－7）12 三井石油化学千葉（関東・千葉）
- 武田薬品光（中国・山口） 25（13－6, 12－5）11 出光千葉（関東・千葉）
- 自衛隊勝田（自衛隊・茨城） 18（10－5, 8－10）15 北陸電力福井（北信越・福井）
- 神戸製鋼（近畿・兵庫） 30（16－7, 14－3）10 安田生命（関東・東京）
- トヨタ自工（東海・愛知） 23（16－11, 7－10）21 川崎製鉄水島（中国・岡山）
- 住友化学愛媛（四国・愛媛） 19（12－4, 7－3）7 大阪ガス（近畿・大阪）
- トヨタ車体（東海・愛知） 24（10－4, 14－5）9 自衛隊千歳（自衛隊・北海道）
- 自衛隊下総（自衛隊・千葉） 24（13－6, 11－4）10 IHI呉（中国・広島）
- セントラル自動車（関東・神奈川） 15（11－6, 4－7）13 美津濃（近畿・大阪）
- 新日鉄名古屋（東海・愛知） 24（14－10, 10－5）15 日本鋼管福山（中国・広島）
- 丸善石油下津（近畿・和歌山） 28（18－8, 10－8）16 日本原子力研（関東・茨城）

○…前年の覇者・東京重機が緒戦で敗れた。一進一退から新日鉄は後半13分PTで12－11と先行、さらに18分大杉、22分南(博)のゴールで3点差をつけ、序幕の波乱を呼んだ。重機も悪いデキではなかったが後半の勝負どころで小さなミスがつづいてしまった。

日碍×川重は、互角の力倆だったが、前半10分5－5から碍子はPTを含む4点連取した〃貯金〃にものを云わせ、守尾、和田らで追いすがる川重をかわした。

日鉄×丸善千葉は、日鉄が17分6－3と優位に立ったが、丸善は前半残り5分、みごとなまとまりで反撃、タイとした。

しかし、地力のある日鉄は、後半、ディフェンスが固まるとともに若本を中心とした攻撃も締まり押し切った。

○…逆転劇が三試合。勝田×北電は、後半8分10－14から勝田が追いあげはじめ17分タイ（15－15）そのあと額賀、斎藤がなだれこんで一気に追い抜いた。

トヨタ自工×川鉄は、トヨタが残り2分間で4点をあげる驚異的な粘りで勝った。川鉄はそれまで21－19とリードしていたのだからまさに悪夢。

セントラル×美津濃は、セントラルが前半のもたつきを、後半開始と同時に取り返し、後半8分までに5点連取、立ち直った。

住友化学、巧い攻め示す
日鉄建材は辛くも逃切り

▽2回戦

- 新日鉄大分 29（16－9, 13－5）14 日本碍子
- 日鉄建材 16（8－10, 8－5）15 三井石油化学山口
- 金沢市役所 19（11－4, 8－6）10 丸善石油松山
- 自衛隊勝田 18（11－8, 7－9）17 武田薬品光
- 神戸製鋼 27（9－6, 18－2）8 トヨタ自工
- 住友化学愛媛 16（11－8, 5－5）13 トヨタ車体
- セントラル自動車 13（6－7, 7－5）12 自衛隊下総
- 丸善石油下津 20（13－8, 7－9）17 新日鉄名古屋

○…面白い試合がつづいた。日鉄×三井石油は、後半12分日鉄が13－9とし、そのままのペースかとみられたが、三井は粘り、18分13－14、22分14－15。しかし、日鉄は、23分PT（外山）でどうにか勝利を握った。

勝田×武田は、武田のリードで進んだが、勝田は後半なかばの連続得点で逆に4点差をつけた。武田は残り5分14－17から猛反撃、いちどは17－17としたが、勝田は終了直前大坂間が決勝ゴールを叩きこんだ。

住化×トヨタ車体は、優勝争いに響く一戦らしく力がこもった。

住化はベテラン揃いらしい試合運びで、後半なかばまでに得点を重ね、残り時間を守りにまわす策を採った。トヨタは後半15分9－13から、エース宮松の突進力を活かし反撃したが13－16までで時間切れ。住化は、25分ハーフを読んだ巧さがあった。

セントラル×下総は、セントラルが8－5の優位を活かせず苦しんだが、つねに先手をとりつづけていたため、辛くも逃げ切れた。

丸善下津×新日鉄名古屋は、A級カードらしい激戦。2点差を追う丸善は後半15分すぎ、鮮やかな集中攻撃で逆転勝ちした。

▽準々決勝

- 日鉄建材 24（12－5, 12－5）10 新日鉄大分

重機を破って注目された新日鉄だが、この日は、立ちあがりから日鉄の猛攻をうけ、前半20分9－3と開かれ、意外の大敗となった。

日鉄は、試合ごとに攻撃力がまとまり、好ムード。

自衛隊勝田 22（9—10、13—7）17 金沢市役所

勝田はどうも勝味が遅い。前半23分には6—9とされ、後半も10分すぎまで金沢の先行を許した。しかし、いちどペースをつかむと秀れた体力と、額賀のシャープな攻撃力を活かし、一気に主導権を握る。金沢は追いつかれたあとももう一踏んばりが欲しかった。

神戸製鋼 21（12—8、6—10、0—0、3—1）19 住友化学愛媛

神鋼は残り5分18—15と安全圏にいながら、住化の金剛、藤田の連続攻撃でタイ、延長戦に誘いこまれてしまった。

しかし、延長となれば、体力的に神鋼有利。1—1（19—19）から山崎、北田で押しこんだ。

住化は、加藤(元全日本)、白石落海らベテランが相変らず主力として活躍をつづけているのは嬉しい。

丸善石油下津 18（10—8、8—2）10 セントラル自動車

セントラルは、貧攻で自滅した後半1分9—10とし、そのさきを期待させたが、追加点は27分後というのでは話にならない。丸善はこの間に北畑中崎らで、じっくり得点をかせぎ楽勝となった。確実な得点パターンを、ひとつでもふたつでも持つのが、セントラルの課題だろう。

自衛隊勝田、決勝へ進出
丸善石油は神鋼制す

▽準決勝

自衛隊勝田 24（13—7、11—8）15 日鉄建材

【勝田】		得
GK	渡部	0
GK	高橋	0
FP	鈴木	0
FP	大坂間	5
FP	小松	0
FP	額賀	3
FP	斉藤	12
FP	藤枝	3
FP	野高	0
FP	高岡	1
FP	平山	0

【日鉄】		得
GK	長	0
FP	南野	2
FP	素原	1
FP	若本	3
FP	清原	3
FP	玉嶋	3
FP	池辺	3
FP	外山	0
FP	岩嶋	0

（審・丸岡 光島）

24（7）PT（2）15

○…勝田が、この大会はじめてスタートからとばした。

日鉄は、それに惑わされたのではなかろうが、組織攻撃が乱れ、13分4—4、20分6—7あたりまでで、完全に主導権は勝田のものとなった。

勝田は、日本リーグ（アダルトリーグ）入りを目指している、と伝えられるだけに、プレーに厳しさが出て来ており、この試合では斉藤がPT7点を含む12ゴールをあげ、額賀依存から脱け出してみせた。

丸善石油下津 24（12—9、12—8）17 神戸製鋼

○…乱戦だった。立ち上りの戦況は、神鋼にブがあったのだが、丸善は19分北畑、20分塩崎で2点差をつけてから落ちつき、松本の追加点などで、しだいに点差を開いた。

【神鋼】		得
GK	大谷	0
FP	江口	0
FP	新家	5
FP	山崎	8
FP	松原	0
FP	河内	1
FP	須藤	2
FP	北田	1
FP	藤谷	0
FP	柴田	0

【丸善】		得
GK	海端	0
GK	谷口	0
FP	塩崎	8
FP	加古	3
FP	松本	8
FP	金谷	0
FP	北畑	3
FP	刀弥	1
FP	中崎	0
FP	辻井	0
FP	善岡	1
FP	楠山	0

（審・望月 新村）

24（2）PT（6）17

神鋼は、相手に先行されても、勝負を左右するほどの深傷ではなかっただけに、こうした局面での粘りが欲しい。

もっともこれは、神鋼に限らずこの大会の各チームに共通するウイークポイントで、それが「日本リーグ勢」との最大の差でもある

▽3位決定戦

日鉄建材 15（9—5、6—9）14 神戸製鋼

勝負の岐れ目は残り5分間という熱戦。日鉄は13—14の劣勢から27、29分にゴールをあげ、みごとなサヨナラ勝ちだった。

丸善石油、後半力つきる

▽決勝戦

自衛隊勝田 26（11—10、15—10）20 丸善石油下津

【丸善】		得
GK	海端	0
GK	谷口	0
FP	辻	0
FP	金谷	1
FP	塩崎	4
FP	善岡	2
FP	加古	1
FP	北畑	4
FP	刀弥	1
FP	松本	7
FP	中崎	0
FP	楠山	0

【勝田】		得
GK	渡部	0
GK	高橋	0
FP	額賀	5
FP	藤枝	9
FP	大坂間	3
FP	斉藤	5
FP	鈴木	3
FP	小松	0
FP	野高	0
FP	高岡	1
FP	平山	0

（審・光島 丸岡）

26（3）PT（1）20

○…ともに連戦の疲れがのぞき守りのもろさに、それがはっきり出た。こうなると、得点の奪い合い。

十たび同点から後半15分、勝田は大坂間のゴールをきっかけに5点連取、一気に勝利へ近づいた。

この集中攻撃に丸善の粘りもさすがに断え、終盤は、元気いっぱいに攻めこむ勝田の一方的な展開となった。

○…自衛隊勝田は、昭和38年にチームが発足。44年から始った全日本自衛隊選手権では、昨年まで10年連続決勝に進出、3回の優勝を飾っている。

発足時から、目標を、社会人球界での上位進出に置き、実業団や全日本総合に積極的に参加していた。

それだけに、今回の決勝の喜びは一しお、日本リーグ入りにはずみをつけるのではないか、と期待されている。

○…こうして勝ちぬいた自衛隊勝田は続く「第十九回全日本実業団選手権」に参加——。といっても、その実業団選手権、同じその日の同じ場所での一回戦。(関連記事4ページ)さすがの勝田も四日間での六試合目は力つき、三陽商会に大敗することになった。

◇　◇

韓国との〝決戦の年〟第一弾

～十六日から男女社会人が相次いで交流～

「11月」への布石打ちたい男女「日本」

11月のモスクワオリンピックアジア予選を控えて、かっこうの前しょう戦もいうべき、日韓社会人交流が三月行われる。まず女子が、三月十六日～二十二日まで、仁川市庁チームが来日、実連ジュニアを初めとする、いくつかの実業団チームと対戦。十九日～二十八日までは、竹野奉昭団長率いる若手中心の全日本男子実業団選抜チームが防韓、韓国の学生チームを中心に対戦しながら転戦する。なお、日韓社会人交流は、男女とも、これで〝第七回〟。

若手中心の男子遠征チーム

○…訪韓する全日本男子実業団選抜チームは若手中心の編成となった。

大同特殊鋼の次代を守るGK大園、同じく大崎電気のゴールを、守ってはカンのいいキーピングで定評のある原田の両GKを守りの中心に、速攻要員として、日本リーグ得点王の松本(湧永薬品)、ヒザの切れのよい吹上（日新製鋼）、ロングシューターとして喜井（本田技研）下茂(日新製鋼)、独特のバネを持つ椿原(大崎電気)、ポストマンとして、若いチームをリードしてくれそうな田上(本田技研)らがオフェンスの中心。

このほか、これからの伸びを期待される梅屋（三陽商会）浦田（大同）らも顔を揃える。

注目されるのは、池辺（日鉄建材）南（新日鉄大分）牧（トヨタ車体）千葉（東京重機）ら、日本リーグ勢以外からの実業団チームからの選手の試合ぶりで、現在、編成が進められている日本リーグ二部（アダルトリーグという名称の予定）への各チームの加盟意欲に好影響が与えられれば――と期待される。

対戦チームは未定

○…監督は細野本田技研鈴鹿監督、コーチ・寺本大崎電気監督の両氏で、団長の竹野氏は、現在全日本男子チーム監督。

竹野団長は「試合数、対戦チームなど、全くの未定、むこうへ着いてからの話となりそう」といっているが、日程からみて、四～五試合を各地でこなすことになりそう。対戦相手も、韓国では、男子の実業団チームが、あまり発達していないことから、学生チームや〝全〇〇大学〟といった学生OB主体のチームとなりそうだが、いずれにしても、韓国男子のトップを争う各チームが顔を揃えそう。

五分五分の星が目標

○…韓国社会人選抜を迎えての第六回（前回＝五十二年十一月）は湧永薬品が勝利を治めただけで日本側の一勝四敗に終わっており今回は、〝勝ちこし〟が目標。

昨年の、世界女子選手権アジア予選で、女子が日本を破った時、韓国の関係者は「次は男子だ」と強い口調で語っており、韓国が国をあげて〝まず女子、次は男子〟と着々と強化を進めていることは確か。男女ともに11月のモスクワオリンピックアジア予選を頂点に〝日韓全面対決〟の年といわれる今年、その第一弾となる、この交流、これらの若手が、その防波堤となるなら、見通しは明るい。

全日本男子実業団選抜チームは三月十九日、午後二時十五分、大阪国際空港から日航機で出発する

▶男子・全日本実業団選抜遠征メンバー◀

・団長　竹野　奉昭（全日本実連副理事長）
・監督　細野　秀男（本田技研鈴鹿監督）
・コーチ　寺本　信一（旧姓・井手，大崎電気監督）
・総務　中田　隆一（本田技研鈴鹿）
・選手

	氏名	所属	才	cm
GK	大園　勝行	大同特殊鋼	23	180
	原田　昌昭	大崎電気	20	180
FP	田上　敬三	本田技研鈴鹿	27	178
	喜井　美雄	本田技研鈴鹿	26	180
	下茂　文秋	日新製鋼	27	176
	吹上　明	日新製鋼	26	171
	松本　義樹	湧永薬品	25	173
	浦田　勝之	大同特殊鋼	21	170
	梅屋　正直	三陽商会	21	186
	椿原　美春	大崎電気	21	176
	池辺　浩	日鉄建材	21	168
	南　喜支	新日鉄大分	20	180
	牧　一秋	トヨタ車体	22	172
	千葉　龍明	東京重機	22	173

仁川市庁を迎える女子

モスクワ予選へ向け大事な試合

○…女子は、昨年六月の世界女子選手権アジア予選で、全日本女子が韓国に敗れて以来の、本格的交流。

来日する「仁川市庁」は、日本側関係者にとっては、じつは〝意外〟。二月初め韓国で行われた、この交流のための「日本遠征チーム決定戦」の結果は、下記のとおりだが、日本関係者にとって意外だったのは、仁川市庁が、現在、韓国でダントツの実力を持つとされるナンバーワンチーム造幣公社を退けての代表権獲得。

「造幣公社に何が起こった」はちょっとした話題だが、その回答は仁川市庁の来日を待たねばなるまい。また、この決定戦の登場した全羅北道農業協同組合チームの名も初耳。韓国が、相変わらず公共企業体でのチーム育成に力を入れていることを物語っているものといえよう。

ナショナル選手の姿も

○…仁川市庁は五十一年の第五回交流以来、二度目の来日。

来日を発表されている十二人のメンバーのうち、昨年の世界選手権（チェコ）の代表となっていたのは、韓星女大時代からアタッカーとして注目されていた張泉姚ひとりだが、昨年六月のアジア予選ではコートに姿を見せた長身の季南子や、朴妙順。GK雀聖姫、安美玉（安は当時聖貞女子高生）。ナショナル候補としてリストアップされている朴玉景ら、11月決戦でも姿を見せそうな選手が顔を揃えており、強豪。

ジュニア選抜も対戦

○…日本側は、全日本総合で女王となったブラザーやジャスコ、北国銀行、大和銀行らの日本リーグ勢が迎えうつほか、全日本実業団ジュニア選抜を編成。二試合を行う予定。

ジュニア選抜の指揮は池田鉄哉全日本女子監督がとるが、メンバーはまだ発表されていない。

若手だけで編成されるジュニアが仁川市庁に勝つことがあるなら全日本女子の将来も明るいといえるだろう。場合によっては各試合で、二つのジュニアチームを編成することも考えられるという。

前回（五十二年四月）は全日本実業団選抜が遠征、一勝四敗と負け越している。

女子社会人交流の通算成績は日本側の二十七戦十六勝一分十敗。

【女子・仁川市庁（韓国）来日メンバーリスト】

・団長　李　慶夏（京畿道協会々長）
・監督　朴　基渕
・コーチ　金　永年
・総務　劉　彰熙
・選手

GK	崔　聖姫	22才	167cm
	安　美玉	19	168
FP	李　南子	20	174
	張　泉姚	20	169
	朴　妙順	23	168
	朴　玉景	20	167
	朴　燦花	21	166
	金　貞愛	18	165
	鄭　述礼	21	163
	金　玉花	20	163
	梁　英淑	19	163
	黄　分徳	22	160

…○日　程…○

3月15日	来日（大阪）
16日	対大和銀行（大阪東淀川体育館）
18日	ジャスコ（四日市市体育館）
19日	実連ジュニア（予定）
20日	実連ジュニア
21日	ブラザー工業（以上名古屋市体育館）
22日	北国銀行（小松市体育館）

造幣公社は仁川市庁に敗る

韓国代表決定戦

3月に行なわれる日韓社会人交流の韓国側女子チーム代表決定戦は2月3日から3日間にわたって同国のトップクラス4チームの間で争われた。いずれのチームも主力はナショナルプレーヤー。

日本の強化関係者が本命と見ていた韓国のエース・李相玉らを揃える造幣公社は初戦で仁川市庁に敗れ、その仁川も最終日全羅北道農協に不覚をとって同率で並んだものの、規定で仁川に代表権。

▽第7回日韓女子社会人交流韓国代表決定戦（2月3日〜5月・ソウル市）

〔第1日〕

仁川市庁	16	（11−8 5−7）	15	造幣公社
光州市庁	10	（7−4 3−4）	8	全羅北道農協

〔第2日〕

造幣公社	20	（10−7 10−6）	13	全羅北道農協
仁川市庁	19	（11−5 8−6）	11	光州市庁

〔第3日〕

造幣公社	20	（15−7 5−8）	15	光州市庁
全羅北道農協	15	（8−8 7−6）	14	仁川市庁

【順位】①仁川市庁2勝1敗②造幣公社2勝1敗③光州市庁1勝2敗④全羅北道農業協同組合1勝2敗（1、2位、3、4位は対戦成績で順位を決定）

プレス・ルーム ＜17＞

杉山　茂
（NHK運動部）

■嬉しい東ドイツ女子の来日

全日本総合選手権を取材中、東ドイツ女子ナショナルチーム来日を知った。

一九七四年の交流以来、一年または二年おきに、という約束があり、今年度は、その三回目にあたる年だけに、昨春以来、東ドイツが来そうだというニュースは、僕の耳にも入っていた。

ところが、いっこうに具体化せず、日本協会の望んでいたのが女子であったため、世界女子選手権アジア予選に日本が敗れて以来、東ドイツが、日本行きを渋りはじめたのではないか、といわれ、絶望と聞いていた。

今回の報せが、あと二〜三日遅れれば、日本協会は、各地へ会場予約の取り消しを指示するつもりだったそうで、危ういところだった。

それにしても、新春早々、嬉しいビッグシリーズだ。

東ドイツ女子は、けして大型ではなく、むしろ技巧、スピードを主武器とした〝日本的なチーム〟である。

こうしたタイプを目指す池田全日本にとって、まさに絶好のお手本となろう。

問題は、東ドイツが、どこまで本気で戦ってくれるか、だろう。

社会主義国家のチームは、けして手を抜かないというが、今回はかなりの強行日程で、しかもノンタイトルとあれば、事情もちがってくる。

東ドイツが、女王の力を示すかどうかは、一に、全日本の戦いぶりにかかる。

全日本が頑張れば頑張るほど、東ドイツは、世界選手権で示した迫力を、日本のファンの前でも見せてくれることになる。

韓国に敗れて、いささか意気消沈の全日本にとって、その〝暗さ〟を吹き飛ばすためにも、五十分間走りに走りまくり、東ドイツを慌てさせて欲しい。

それが、モスクワへつながる唯一の道にもなるし、今回、東ドイツを招いた最大の意義になる。初めから、勝負あったでは、日本の女子のハンドボールは、国内の愛好者から見放されてしまう危険につながろう。

戦術、技術のほか、東ドイツ女子で注目したいのは、選手たちの年令構成だ。

看板であるリヒターとクレチュマルは、ともに30才をこす主婦選手、レギュラーは、ほとんど20才代後半である。それに21〜19才の若手が散りばめられている。

結婚すると、とてもスポーツ（ハンドボール）どころではなくなる日本との国情の違いがすべてだが、ヨーロッパの女子ハンドボールはどこも東ドイツと大同小異。それだけ、スポーツが生活に根づいているわけである。

七三年のOSC・ラインハウゼンや、昨年のVfR・マンハイム（ともに西ドイツのクラブチーム）の時にも、痛感したが、きっと、今回も、僕がいちばん強く印象に残るのはこのことに違いない。

■日本協会事業に積極性を

日本協会が創立四十周年記念式典を開いて、はや一年たつ。

新しい気持ちでのスタート、という合言葉が、当日の式典であったそうだが、この一年間、必しもそうした姿勢、意欲に満ちあふれていたとは、いい難い。

オリンピックに定着し、日本リーグができ、中学大会も文部省のお墨つきをいただいて……と安泰ムードが流れるのは、それはそれで結構だが、どうも、近頃、日本協会周辺に、パンチの利いた動きが少ない。

来月が任期満了といわれるので思い切って書くが、役員（理事陣）の積極性、企画性の欠如に、かなり不満の声も出はじめている。拙いことだと思う。

特に、日本協会のすべての動きが、いささか〝その場あたり〟になっているのは、どうにかしなくてはなるまい。

長期にわたる展望力、現状掌握力が、あまりにもずさんだからではないか。

看板事業たるナショナルチームに対する強化事業にしても、かなり危い橋を、渡りつづけている。〝現場〟の情熱が、空廻りする懸念を、僕のような第三者でさえ抱くほどだ。

「みんな愛着をもって、それなりに努力している」とは、日本協会執行部の人が好んでつかう言葉だが、本当にそうだろうか。

ナショナルチームの件に限らず例えば日本リーグも、今夏の中学校大会も、日本協会内に、もっと盛りあがった空気が流れていい。

二回目を間近かにしている全国高校選抜大会も、いぜん、日本協会の事業という意識がうすい。

一つ一つの事業を、時には慎重に、時には思い切った手段で、執行部一丸となった態勢で〝消化〟していかなければ「新しい気持でのスタート」など空念仏に終る。

急に、こんな苦言を書いた理由は、もう一つある。

日本協会の財団法人化が、着々と準備されていることだ。

社会的に〝認知〟され、一つの人格をもった団体として新発足するのは、基金ばかり揃ったところで仕方がない。それに見合う役員の能力―事業力が不可欠である。

この点の認識を甘いままにして財団法人へ突き進んでは、とんでもないことになろう。

関東学生選抜が出発

男女46人が西独へ研修遠征
それぞれ5試合消化の予定

西ドイツへ昨年に引き続き、2回目の〝研修遠征〟をする関東学生選抜～前号既報～の選手団が2月27日成田国際空港を旅立った。

一行46名（前号既報のメンバーのうちの役員、中沢重夫、青木宏治両氏は用務のため不参加）は、フランクフルト付近を中心に転戦し、おもに南西リーグ北地区所属のクラブチームと、男女各5試合を消化の予定である。

選手団は、出発直前まで、日体大体育館などを使って、二週間あまりの調整練習を消化して、選抜チームの弱点といわれるコンビネーションの強化を企った。

男子はGK井藤（日体大）を守りの要（かなめ）に、吉見(早大)松井（日体大）仲田（日大）らを中心とした攻撃型のチーム。また女子も、磯山、川波、藤本らの東女体勢に、鈴木（紀）石井（幸）大崎、GK稲葉ら日体大勢を加えたメンバーを中心の若さあふれる走りのチーム。

「五割以上の戦績を残したい」と菅野富夫男子監督、高野亮女子監督が口を揃えるとおり、かなりの成果が期待されている。

〝研修〟の名のとおり、ハイデルベルグ大学の体育施設の見学や全国リーグの試合見学も予定されており、若い選手が多いだけに充実した遠征になりそうだ。

吉見昌憲男子主将（早大4年）**の話**　とにかく精一杯やってきます。若い連中の中には楽しみな素材がたくさんいるので、全員でどこまで通じるか、やってみます。

磯山久美子女子主将（東女体大3年）**の話**　昨年は初めてということで、どこにいってもビックリすることばかりでしたが、今回は2度目の選手がかなりおり、落ちついて試合に集中できそうです。

▽対戦相手（予定）

（男子）ボルシア・フルダ、ヘッペンハイム、ブラットバッハほか。

（女子）ボルシア・フルダ、ヘッペンハイム、GW・フランクフルト、オーバーオーゼルほか。

フリースロー（編集委員会論壇）

底辺の実情を無視した競技運営規定の改正に疑問

昭和53年度も終わりに近づいた。53年度は2年に1回を目安に改正される競技規則の改正年度でもあった。いくつかの改正点があり、イエローカードの登場など目新しいルールもあったが、かなりスムーズにプレーヤー間に浸透していった方だ。

ただひとつ、改正点の中で、どうしても一年間疑問に思い続けてきた点があるので、この場をお借りして、その疑問を表明しておきたい。

それは、最も目立たなかった改正点のひとつであるが、赤いルールブック(53年度版)の「競技の運営」（この項が〝競技規則〟であるのかどうかも疑問だが）のうちの73ページで、リーグ型の試合形式における順位の決定方法の記述がある。

この項では、昨年度まで①勝点数の多い方（勝2、引き分け1、負0）②全得失点差の多い方③全得点の多い方、の順に順位決定を行うことになっていたが、53年度ルールでは、この旧ルールの①と②の間に割りこむ形ちで〝同勝点チーム間の対戦成績の結果で順位を決定する〟という方法が、得失点差に優先するということになった。

リーグ型の試合形式で、得失点差が優先するのか、対戦結果が優先するのか――これまでも、よく論争されてきた。筆者が知る関東学生リーグでも、この10年間の間に5、6度にわたり、どちらを優先させるのかは〝行きつ戻りつ〟している。

今ここでどちらを優先させるべきかということについて論争を挑もうというのではない。筆者がいいたいのは、この規定をルールに収めて全ての大会に適用させようとするのには無理があるのではないか――、各大会運営当時者が、どちらを優先させるべきかは選ぶ方がいいのではないか――ということだ。

なぜならリーグといってもさまざま、高校生の3校リーグ、4校リーグもあれば、学生の8大学リーグ、日本リーグのように8チームの2回総当たりというリーグ形式もある。

そのさまざまなリーグの大小を無視してオフィシャルルールでいちように規定してしまうのには無理がないだろうか。

53年度ルールにある新規定14行は、日本リーグの運営規定をそっくりそのまま写したものである。確かに8チーム2回総当りの日本リーグで対戦結果が優先されるのはうなづける。勝ち点が同じでも、2度にわたりそのチームに勝っているとなればやっぱり勝っているチームの方が強いのだろう。

が、3チームや4チームでのリーグにまで、この考え方がチームの強さにつながるかどうかに疑問が残るのだ。

このルール改正は、さすがに各地で混乱を招いたものと見え筆者のところに集まってくる各地の記録のうち、リーグ形式の大会の、同勝ち点のケースで順位決定の際、旧ルールで行なっている大会がかなりあったし、ある地域の学生リーグでは各部で、新旧ルールが入り乱れて適用されていたものだ。

この項のルール改正が「日本の最高峰の日本リーグが行なっている方法なのだから、他も総てこれに習え」といった改正であったのなら、実情を考えぬあまりにも安易な〝勇み足〟といわねばなるまい。

（山本浩二・編集委員）

☆★☆★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

東ドイツの地力に注目

東欧の有力国を中心とした男子のビッグトーナメントが、相次いで開かれた。

まず、第9回シュエリン国際（東ドイツ）は、5カ国6チームの総当り戦で行われ、東ドイツが、ドライボート、ベーメらの活躍でハンガリーを16―15、ルーマニアを22―11、ポーランドを22―18などで破り優勝した。

2位にはコバクス、コントラを中心としたハンガリーが食いこんだが、ハンガリーは、まだモスクワ行きを決めていず、例年にます国際交流をつづけている。

また恒例のトビリシ（ソ連）トーナメントは、ソ連、チェコ、ルーマニア、ユーゴの星のつぶし合いとなり、ファアンを沸かせたが、結局、ソ連が、チェコに引き分け（22―22）た以外は、順当に勝ち点をあげ、首位となった。

2位のチェコは、ハンガリー同よう、まだ、オリンピックへのパスポートを握っていない。

伝統の第10回バルト海トーナメントは、デンマークで開かれ、ヨーロッパの有力7カ国が参加、注目を集めた。

2組の予選リーグのあと、各組同位で順位を争ったが、決勝は東西ドイツの対決となり、東ドイツが18―15（前半10―6）で快勝した。ソ連は、予選で東ドイツに19―20で敗れており、東ドイツの地力が見直された。

西ドイツは、スペングラー、クルースパイスが欠場している。

ロス五輪での採用確定的

一九八四年ロスアンゼルスで開かれるオリンピック大会で、ハンドボールが実施されるかどうか、一部で心配され、記者なども、かなり気をもんだ一人だが、どうやら、〝削除〟の不安は、遠のいたようだ。

ご承知のように、アメリカではまだハンドボールの普及が充分でなく、しかも、ロスアンゼルス当局が、テニスやベースボールを是非、競技種目に加えたいという動きのあることが伝わっていたからハンドボール関係者は、気が気でなかった。

しかし、テニスやベースボールのアメリカにおける人気は、プロが主体で、それがそのままオリンピックへすぐにつながる、というわけのものではないらしい。

正式には、3、4月のIOC（国際オリンピック委員会）理事会の決定を待たねばならぬだろうがヨーロッパのスポーツ紙を見る限り、ロスアンゼルスの実施競技はミュンヘン―モントリーオル―モスクワと同じ、ハンドボールなど21競技とみて、さしつかえなさそうである。

これに呼応するかのように、アメリカ・ハンドボール界の動きもなかなか活発で、早くも、今秋の世界ジュニア選手権に、男女参加を発表しているし、昨秋、メキシコが行った国際大会には、〝地元〟ともいうべきロサンゼルスの「南カリホルニア大学ロサンゼルス（UCLA）」を派遣したほどだ。

UCLAは、スポーツの盛んな大学として知られ、ここにハンドボールチームが生まれていたのを初めて知ったが、近い将来、〈日米大学ハンドボール〉の開催を働きかけてみたら面白い。

ソ連、小まめに動く

世界チャンピオン・西ドイツが比較的ゆったりと構えているのに比べ、ソ連チームの動きは実に活発だ。

新春早々、マショリン、アンピロゴフ、ベロフ、GKイチェンコら主力メンバーが西ドイツへ遠征それも、同国内のクラブチームと精力的に対戦している。

西ドイツは、地域協会主催による国際トーナメントが盛んで、今回のソ連は、そうした大会を小まめに廻っている感じ。

たまたま、ビルトラン、ドラガニタ、スティンガらを擁すディナモ・ブカレスト（ルーマニア）も来征中とあって、オッフェンベルグ、フライブルグ、ジンゲン、ハンブルグなどのトーナメントは、豪華な内容となり、地元ファンを喜ばせた。

これらのトーナメントは、ほとんどが、20分または15分ハーフのいわゆる「スプリント・マッチ」世界二位のソ連に、地元チームが大接戦することも多く、人気を呼んでいる。

しかも、4チーム総当り全6試合を、半日ほどで消化してしまうのだから、ファンは、たんのうできる。

スイス、44年ぶりの五輪への意欲

昨秋の世界選手権Cグループで圧倒的な強味をみせて優勝したスイス（＝本誌前号既報）は、2月末スペインで行われるBグループ

兼モスクワ・オリンピックヨーロッパ予選を前に、いちだんとはずみのついた強化をつづけ、つい最近、プラハに乗りこんでBグループの優勝候補チェコと1勝1敗（第1戦19－17、第2戦21－22）と星を分け、ますます、その評判を高くしている。

スイスの意欲は、すさまじいばかりだ。

目標は、C、Bグループをかけぬけモスクワ・オリンピック出場と、ぶちあげたのが昨春のこと。

その意気ごみは買えても、それまでのスイスの実力からすれば、「理想に近い」というのが、専門家たちの一致したみかただった。

ところが、どうだろう。ユーゴから招いたヤニッチ監督の積極的な指揮で、東欧の強豪と次々に手合せ、一戦ごとにスイスは実力を引き上げていったのである。

特に、昨年6月のユーゴ国際でソ連を24－21、つづいての国際試合で東ドイツを22－20で破った2試合は、大きな話題となった。

ヤニッチ監督は、同じユーゴ人で、西ドイツを率いて世界の王座に就いたステンツェル監督とは対照的な〝指導法〟を採っている。

ステンツェルは、無名の若手をたたきあげてチーム造りをしてきたが、ヤニッチは、〝短期決戦〟ということもあり、現有勢力にいかにキャリアをつませ、自信をつけるかに賭けた。

はたして、この勢いがBグループでどこまで発揮されるか。

もし、モスクワ行を決めるようなことがあれば、一九三六年のベルリン大会（十一人制）以来、スイスにとって、実に44年ぶりのオリンピックということになる。

来日クラブの近況

ヨーロッパ各国は、年度チャンピオンを決める全国リーグがたけなわだが、かつて来日したことのあるチームの近況を探ってみよう

まず、西ドイツ男子では、14チーム2回総当りの前半が終ったところで、VfL・グンメルスバッハ（46年来日）がトップを走っている。来月当時のスーパースターH・シュミットは2部のTB・ウルフラスに移り、その他の選手もだいぶ代っている。現在の主力は西ドイツの切り札・デッカルムをはじめブラント、ローゼンダールヴンデルリッヒ、フエイらだ。

GW・ダンケルセン(47年来日)は6位、THW・キール(同)は11位、FA・ギョッピンゲン（48年来日）は4位。

昨春来日で記憶に新しいチェコのスラビア・プラハは、今シーズンも出足はよかったが、中盤、調子を崩し、12クラブの5位、しかし、トップと一・五ゲーム差なので、終盤の追いあげに期待がかかる。

スウェーデンのドロット・ハルムスタット（51年来日）は、昨年スウェーデン・リーグを制し2連勝を狙っているが、今季は、やや波が多く、あと4試合を残し3位で、王座を守れそうにない。

フランスのステラ・サンモール（39年来日）も、昨シーズン、フランスチャンピオンとなり、今季も順調だが、フランスは、リーグのあと、さらにベストフォアでのプレイ・オフがあるため、予断は許さない。

来日時が絶頂時だったのは、スペインのバロンマノ・グラノリエルス（50年来日）と、デンマークのスタジオン・コペンハーゲン（49年来日）で、現在はかつての面影がなく、スタジオンは2部落ちしてしまっている。

一方、女子は、これまで西ドイツから3クラブが来日しているがいずれもパッとしていない。

特に、昨春来日したVfR・マンハイムは、目下1分11敗で最下位、OSC・ラインハウゼン（48年来日）も、今シーズンせっかく全国リーグ入りしながら2勝10敗で、このままでは2部に逆戻りしてしまおう。

OSC・レーベルゲ(52年来日)は、いぜん2部の中位。女子クラブの来日は、よほど吟味しなければならないことが判る。

ヨーロッパ2大会展望

第19回（女子第18回）ヨーロッパ・カップ、第4回(女子第3回)ヨーロッパ・カップ・オブ・カップスの2大会は、昨年10月に開幕久々にソ連、ルーマニアからも代表が送られて、各地を沸かせているが、1月末までに各大会ともベストエイトが決まっている。

カップの男子は、予想どおりチェスカ・モスクワ(ソ連)、ディナモ・ブカレスト(ルーマニア)の両雄が進出、人気のグロスバルスタット(西ドイツ)、SC・エムポール・ロストク（東ドイツ）らも好調である。ダークホース視されているBC・アリカンテ(スペイン)は、今年こそと燃えており、準々決勝のブカレスト戦がみもの。

カップスの男子は、本命VfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）とMAI・モスクワ（ソ連）が準々決勝で対戦することになってしまい、ファンを嘆かせたり、沸かせたりしている。

このほか、SC・マグデブルグ(東ドイツ)、ミナウル・メア（ルーマニア)、バニヤス・タタバニヤイ（ハンガリー）など。

主力来日のTSC・ベルリン

女子は、カップでは、7回目の優勝を狙うスパルタ・キエフ（ソ連）が抜群の存在。

二番手にSC・ライプチヒ（東ドイツ）、ルク・コルゾフ（ポーランド）、バサス・ブダペスト(ハンガリー）らの東欧勢がひしめく180cmのエース・ピエルバウムを持つアイントラクト・ミンデン（西ドイツ）が、この一角にどこまで食いこむかが話題である。

カップスは、前年カップをとっているTSC・ベルリン（東ドイツ)が、相変らず好調。ここの主力リヒター、マッツ、クラウゼらは間もなく日本へ姿をみせる。

追うのは、2連勝をもくろむフエレンクバロス・ブダペスト（ハンガリー）とシャルジリス・カウナス(ソ連)。西側ではAIA・トランビエルグ（デンマーク）とスイフト・ロエルモンド(オランダ)が残っているがここまでが、精いっぱいだろう。

＜注＞**ヨーロッパ・カップ** 各国の全国リーグ勝者（チャンピオンチーム）による大会。別名チャンピオンズ・カップ。

ヨーロッパ・カップ・オブ・カップス 各国が全国リーグとは別個に開く全国トーナメントの勝者による大会。トーナメント戦を「カップ戦」と呼び、別名カップ・ウイナーズ・カップ。

◇　◇

＜杉山　茂＞

東北総合

七戸ユニオン初優勝
女子 ムネカタが辛くても七連覇

各地の記録

○…第十五回東北総合室内選手権大会は一月二十七、二十八の両日宮城・中新田町民体育館、古川工高体育館に、男子十二、女子十チームを集めて開催された。

男子は七戸ユニオン（青森）が準決勝で、優勝候補の筆頭とされた湯沢クラブ（秋田）を大接戦の末に降して波にのり、決勝でも、同県代表の青森クラブを、前半9―9の一進一退の攻防から、後半に入るや、速攻をまじえて一気にスパート、後半を11―6として突き放した。七戸ユニオンは初優勝同チームは昨年の第一回東北クラブ選手権の優勝チームでもあり、このところめっきり力をつけてきたチーム。とくに接戦に強くなってきているところが最近の強味。

○…一方の女子は、唯一の実業団チーム・ムネカタが七年連続八回目の優勝を飾った。

しかし、ムネカタにとっては、近年になく苦しい優勝。とくに京都で行われた全日本女子実業団選手権と日程が重なっていたため、初戦は、残留組の若手で乗りきり準決勝以後、帰郷したレギュラー組で戦う予定だったが、夜行列車で到着、即コートへという強行軍であったうえに、エース・清水（み）が全日本実業団で悪いヒザを酷使していたため不調で、秋田和洋女高に大苦戦。前半はリードを奪われ、追っかける側に回ったムネカタが、辛くも逆転勝利。

決勝は、そのムネカタと、昨年の東北ミニ国体では、このムネカタを破って優勝した岩手桐花クラブの因縁の対決となったが、準決勝での苦戦で奮起したムネカタが橋らで食いさがる桐花クをふりきった。

東北総合選手権スコア

▽男子・一回戦

仙台大OB送球会（宮城）	17（10―9　7―6）15	湯沢高（秋田）
岩手教員（岩手）	27（14―8　13―6）14	新庄工高（山形）
福島教員（福島）	19（7―9　12―7）16	花巻北高（岩手）
七戸ユニオン（青森）	26（15―3　11―3）6	大石田高（山形）

▽二回戦

青森ク（青森）	21（10―11　11―7）18	仙台大OB送球会
福島SGク（福島）	17（10―11　7―4）15	岩手教員ク
湯沢ク（秋田）	32（15―7　17―8）15	福島教員
七戸ユニオン	16（9―9　7―4）13	全学院大（宮城）

▽準決勝

七戸ユニオン	20（10―12　10―6）18	湯沢ク
青森ク	23（13―8　10―10）18	福島SGク

▽決勝

七戸ユニオン	20（11―6　9―9）15	青森ク

▽女子・一回戦

岩手桐花ク（岩手）	10（6―0　4―1）1	長沼高（福島）
古川商高（宮城）	4（1―0　3―2）2	花巻高南（岩手）

▽二回戦

米沢商高（山形）	7（2―2　5―0）2	二華会（宮城）
岩手桐花ク	10（6―2　4―1）3	全和洋（秋田）
ムネカタ（福島）	15（9―1　6―1）2	古川商高
和洋女高（秋田）	12（不戦勝）0	野辺地ク（青森）

▽準決勝

ムネカタ	10（5―2　5―7）9	和洋女高
岩手桐花ク	12（6―4　6―2）6	米沢女高

▽決勝

ムネカタ	8（4―3　4―3）6	岩手桐花ク

東海室内

大同が五連覇飾る
女子はジャスコが四連勝

第十八回東海室内選手権は名古屋NHK杯をかけて二月十八日、静岡県清水商高体育館で開催された。決勝は、男子で大同特殊鋼（愛知）―本田技研鈴鹿（三重）、女子でジャスコ（三重）―ブラザー工業（愛知）の日本リーグ勢が予想どおりの対決。男子は大同が五年連続八回目の優勝、女子はジャスコが四年連続四回目の優勝を果たし、それぞれ、東海のキング、クイーンの座についた。

大同は、相変らず蒲生を中心とした攻撃と、ベテラン揃いらしい味のある守りで、前半戦をコンスタントにリード。後半、本田の田上らの粘りにあったものの逃げきった。

一方、女子は、一カ月前、日本チャンピオンになったブラザーが〝追われる側〟に立っての試合だったが固くなったのか、全くいいところなく終ってしまい〝クセ〟となってしまった好不調の波の激しさをまたもや出してしまった。

東海室内選手権スコア

▽男子・一回戦

大同特殊鋼（愛知）	30（17―7　13―3）10	岐阜教員（岐阜）
本田技研（三重）	37（15―5　22―1）6	静農ク（静岡）

▽決勝

大同特殊鋼	20（9―9　11―7）16	本田技研

▽女子・一回戦

ジャスコ（三重）	17（8―3　9―4）7	県岐商OG（岐阜）
ブラザー（愛知）	26（11―4　15―1）5	清商ク（静岡）

▽決勝

ジャスコ	14（6―2　8―3）5	ブラザー

【本田】	得		【大同】	得
GK 柴田	0		GK 柳川兄	0
細野	0		大園	0
FP 田上	5		中井	0
佐藤	5		FP 松原	1
喜井	2		花輪	3
豊岡	0		柳川弟	3
水本	2		大原	3
天野	0		中本	2
西田	0		蒲生	8
佐々木	0		更谷	0
高橋	2		浦田	0
松本	0		小野	0
16	(4)	PT	(1)	20

（審・久保田、大橋）

【ブ工】	得		【ジャ】	得
GK 山本	0		GK 山本一	0
屋比久	0		矢部	0
FP 則武	1		FP 平田	0
木下	0		松下	2
平井	0		林	0
宮平	1		河田	4
植田	0		笠	0
山村	1		若田	1
川村	1		横山	2
中川	1		辻本	4
宮本	0		宮崎	0
岡山	0		山本二	1
5	(10)	PT	(3)	14

（審・服部、宮田）

パルパル エブリボディ。



5タイプそろったホンダのパルシリーズ。乗りやすさは共通。お好きなタイプが選べます。

ロードパルの仲間たちが、たくさん走りはじめています。あの道、この道が、急にバラエティ豊かになりました。スタイルいろいろ。色とりどり。乗る人の個性と、パルの個性が…なぜかぴったり合うのです。5タイプそろったパルのうち、あなたのお気に入りはどれですか。もちろん、やさしさ・乗りやすさは、みんなおなじ。気軽にどこかへ散歩、としゃれてみたくなります。

パルはユニーク。新しい仲間も、個性たっぷり。●パルフレイ：エレガントなデザイン。乗り降りのラクなU字フレーム(車体中央)。泥ハネから足もとを守るレッグシールドなど親切設計が特長。●パルホリデー：ユニークなヒップアップ・シート。しゃれた感覚のバーハンドル。タウンで似合うバイクです。●パルディン：スリムなパイプフレーム、イキなクロームメッキ・フェンダーがナウな感じ。

ごぞんじですね、ラッタッタ。
ロードパル ―――標準現金価格 ¥59,800

クイックスタート、とってもべんり。
ロードパル-L ―――標準現金価格 ¥64,800

乗るかたへの心くばりがいっぱい。
パルフレイ ―――標準現金価格 ¥75,000

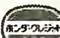
しゃれたスタイル、タウンで似合う。
パルホリデー ―――標準現金価格 ¥79,000

ヤングの感覚、ナウなフィーリング。
パルディン ―――標準現金価格 ¥79,000

ヘルメットをかぶろう HONDA®

「私のパル」を持ちましょう。

パルスクール 原付免許の取り方だけでなく、正しい乗り方指導までも実施しているのが「パルスクール」の大きな特長。ていねいにご指導しています。



わずかな頭金とかんたんな手続きでお求めいただけます。お支払い方法は、ご予算にあわせていろいろ。クレジットカードはいりません。

★パルスクールとクレジットの詳細は、ホンダ販売店でどうぞ。

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593：78－1212〈代表〉













こんなとき便利な ダイワ キャッシュカード。



日常のお引き出しに…
カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…
ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00(土曜日は午前9:00～午後2:00)まで、また☑マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…
お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや☑マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…
給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

☑マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

スコアメモ ～各地学生53年秋季リーグ～

中四国（10月～11月）

▽男子1部

広島大福山 23－13 修道大
山口大 17－15 愛媛大
広島大 21－12 修道大
山口大 20－16 広島大福山
愛媛大 17－14 広島大
広島大福山 18－13 広島大
山口大 18－13 修道大
広島大福山 22－10 愛媛大
山口大 23－18 広島大
修道大 18－17 愛媛大

【順位】①山口大4勝②広島大福山3勝1敗③広島大1勝3敗④愛媛大1勝3敗⑤広島修道大1勝3敗（3、4、5位は三者三つどもえのため、得失点差で決定）

▽男子2部

島根大 22－14 松山商大
広島工大 35－11 岡山大
島根大 30－21 徳島大
松山商大 21－18 岡山大
広島工大 34－15 徳島大
松山商大 30－16 徳島大
島根大 22－17 岡山大
広島工大 21－15 松山商大
岡山大 26－19 徳島大
島根大 23－14 広島工大

【順位】①島根大4勝②広島工大3勝1敗③松山商大2勝2敗④岡山大1勝3敗⑤徳島大4敗

近大呉工学部 22－13 鳥取大
山口大工学部 16－15 高知大
香川大 17－15 鳥取大
近大呉工学部 16－15 高知大
香川大 21－13 山口大工学部
香川大 21－18 近大呉工学部
鳥取大 19－9 高知大
近大呉工学部 23－14 山口大工学部
香川大 20－18 高知大
鳥取大 18－11 山口大工学部

【順位】①香川大4勝②近大呉工学部3勝1敗③鳥取大2勝2敗④山口大工学部1勝3敗⑤高知大5敗

▽女子

岡山県短大 10－7 岡山大
山口大 13－6 岡山県短大
山口大 6－3 岡山大

【順位】①山口大2勝②岡山県立短大1勝1敗③岡山大2敗

関西（10月～11月）

▽男子1部（一六九号既報）

▽男子2部

神戸大 26－21 天理大
立命大 13－10 京大
天理大 11－10 関学大
大阪府大 16－12 甲南大
大阪府大 12－12 京大（引き分け）
神戸大 17－17 甲南大（引き分け）
関学大 11－7 神戸大
立命大 17－12 甲南大
立命大 22－15 神戸大
京大 15－8 甲南大
神戸大 21－12 京大
関学大 17－9 大阪府大
関学大 17－14 立命大
天理大 23－9 甲南大
天理大 12－11 立命大
天理大 18－17 大阪府大
大阪府大 22－17 立命大
関学大 23－9 甲南大
天理大 21－18 京大
神戸大 20－17 大阪府大
関学大 16－14 京大

【順位】①天理大5勝1敗②関学大5勝1敗③神戸大3勝2敗1分④立命館大3勝3敗⑤大阪府大2勝3敗1分⑥京都大1勝4敗1分⑦甲南大5敗1分（1、2位は対戦成績で天理大が1位）

▽男子3部

京教大 25－9 大工大
大市大 20－13 桃山学院大
大教大 24－15 大工大
京教大 15－12 大教大
大工大 19－16 桃山学院大
京教大 15－13 和歌山大
大市大 16－13 大薬大
大工大 14－12 和歌山大
大薬大 18－12 大教大
京教大 13－10 桃山学院大
大市大 13－9 大教大
京教大 16－14 大薬大
桃山学院大 14－12 大薬大
大教大 20－15 桃山学院大
大市大 19－8 和歌山大
桃山学院大 18－10 和歌山大
大工大 15－14 大市大
大教大 26－16 和歌山大
大市大 15－14 京教大
大薬大 15－12 和歌山大

【順位】①大阪市大5勝1敗②京都教大5勝1敗③大阪工大4勝2敗④大阪教大3勝3敗⑤桃山学院大2勝4敗⑥大阪薬科大2勝4敗⑦和歌山大6敗（1・2位、5・6位は対戦結果で順位を決定）

男子4部

龍谷大 20－14 追手門大
関西外語大 18－15 追手門大
龍谷大 21－12 大阪外語大
関西外語大 22－12 滋賀大
龍谷大 22－21 関西外語大
大阪外語大 11－10 京都工繊大
龍谷大 19－16 京都工繊大
追手門大 17－15 大阪外語大
京都工繊大 15－12 滋賀大
追手門大 18－16 京都工繊大
大阪外語大 18－10 滋賀大
関西外語大 20－17 京都工繊大
龍谷大 16－11 滋賀大



1979

昭和54年度から“より大きな補償”の保険になります

スポーツ団体だけでなく
子ども会，婦人団体，地域のクラブ等の方々も
10名以上のグループで，ご加入になれます

●保険料，保険金額は（お一人につき）

区分		保険料	死亡・後遺障害保険金額	医療保険金額 通院中	医療保険金額 入院中
第1種	A	340円	12,000,000円 後遺障害の支払いは 3％～100％	日額 1,000円 支払限度日数 90日	日額 1,500円 支払限度日数 180日
	B	400			
	C	680			
第2種	A	9,600			
	B	3,200			
	C	1,600			

（注）特に希望がある場合は，保険料，保険金額が上記の半額になるS型の加入も可能です。

●第1種，第2種ABCの区分は次のとおりです。

第1種	A	スポーツ少年団，子ども会，こてきバンドなどの幼少年グループ
	B	PTA，旅行同好会，万歩クラブなどで文化活動，奉仕活動，軽スポーツなどを行う団体
	C	ママさんバレー，早起き野球などの地域スポーツ団体
第2種	A	山岳会，スキンダイビング，リュージュなど
	B	スキー，ラグビー，サッカー，柔道，ボクシング，空手，馬術など
	C	卓球，テニス，陸上，水泳，軟式野球，バレー，ボート，体操競技など

●体協公認等の指導者も10名以上まとまった場合は第1種Cで加入できます。また，指導する団体の一員としても加入できます。

●適用の範囲（担保条件）は
- ○加入者の所属する団体の管理下における活動中の事故。
- ○団体が指定する集合，解散場所と加入者の住所との通常の経路往復中の事故。
- ○ただし学校管理下（学校安全会の給付対象内）における事故は不担保。

●保険期間
毎年4月1日より翌年3月31日まで。ただし，中途加入でも翌年3月31日までです。（申込は3月1日から受付ます）

●加入申込み，資料の請求，お問合せは……
スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課にあります），東京海上火災の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館
電話 467－3111（代） 直通460－6263

関西外語大16―11 大阪外語大
追手門大 33―12 滋賀大
【順位】①龍谷大5勝②関西外語大4勝1敗③追手門大3勝2敗④大阪外語大2勝3敗⑤京都工織大1勝4敗⑥滋賀大5敗

▽男子5部
京都外語大12―11 姫路工大
大阪学院大26―11 神戸商船大
奈良教大 20―9 姫路工大
大阪学院大11―8 京都外語大
奈良教大 20―14 京都外語大
神戸商船大17―9 姫路工大
大阪学院大26―8 姫路工大
神戸商船大19―14 大阪歯科大
奈良教大 17―8 神戸商船大
奈良教大 20―16 大阪学院大
神戸商船大30―8 京都外語大
大阪歯科大27―17 姫路工大
大阪学院大19―8 大阪歯科大
京都外語大17―16 大阪歯科大
奈良教大 25―18 大阪歯科大
【順位】①奈良教大5勝②大阪学院大4勝1敗③神戸商船大3勝2敗④京都外語大2勝3敗⑤大阪歯科大1勝4敗⑥姫路工大5敗

▽女子1部（一六九号既報）

▽女子2部
大薬大 15―3 滋賀大
大薬大 10―5 奈良教大
関学大 14―8 和歌山大
奈良女大 4―3 関大
京都女大 16―6 関学大
奈良女大 10―7 和歌山大
関大 9―8 和歌山大
関学大 5―2 滋賀大
京都女大 9―3 奈良女大
大薬大 8―5 京都女大
関大 5―4 滋賀大
奈良教大 15―4 和歌山大
大薬大 7―5 奈良女大
関大 7―6 大薬大
大薬大 15―5 関学大
関大 5―3 奈良教大
京都女大 8―2 滋賀大
大薬大 16―7 和歌山大
奈良教大 9―6 奈良女大
奈良女大 5―1 滋賀大
関大 13―7 関学大
奈良教大 7―6 京都女大
京都女大 9―6 和歌山大
奈良教大 12―7 関学大
奈良女大 10―6 関学大
和歌山大 5―4 滋賀大
京都女大 10―4 関大
奈良教大 12―2 滋賀大
【順位】①大阪薬科大6勝1敗②京都女大5勝2敗③奈良教大5勝2敗④関大5勝2敗⑤奈良女大4勝3敗⑥関学大2勝5敗⑦和歌山大1勝6敗⑧滋賀大7敗（2、3、4位は三者間三つどもえのため得失点差で順位を決定）

関東（9月～10月）

▽男子1部（一六九号既報）

▽男子2部
国士大 29―14 駒大
東海大 20―18 明星大
明大 29―19 立大
明大 24―12 横商大
東海大 32―9 駒大
国士大 25―6 明星大
学芸大 21―15 立大
国士大 30―10 立大
横商大 23―16 東海大
明大 28―19 駒大
学芸大 25―23 明星大
明大 22―11 明星大
東海大 15―11 立教大
国士大 31―13 横商大
学芸大 31―17 駒大
国士大 25―18 学芸大
横商大 27―15 駒大
立大 23―17 駒大
明星大 20―14 横商大
明大 18―17 東海大
学芸大 19―16 横商大
明星大 22―19 立大
明星大 23―14 駒大
東海大 20―15 学芸大
横商大 22―14 立大
国士大 24―13 明大
明大 13―13 学芸大
引き分け
国士大 22―15 東海大
【順位】①国士館大7勝②明治大5勝6敗1分③東京学芸大4勝2敗1分④東海大4勝3敗⑤明星大3勝4敗⑥横浜商科大3勝4敗⑦立教大1勝6敗⑧駒沢大7敗

スコアメモ ～各地学生53年秋季リーグ～

▽男子3部
専修大 12―12 青学大
引き分け
関東学院大19―11 芝工大
大東大 17―10 防衛大
大東大 20―12 芝工大
青学大 20―18 防衛大
茨城大 13―12 専修大
関東学院大19―11 東工大
大東大 13―12 専修大
関東学院大17―13 青学大
茨城大 18―10 東工大
青学大 16―15 東工大
大東大 11―10 関学大
茨城大 18―13 芝工大
防衛大 26―14 専修大
専修大 18―16 東工大
茨城大 21―19 青学大
防衛大 23―14 芝工大
専修大 16―16 芝工大
引き分け
防衛大 23―18 東工大
茨城大 12―12 関東学院大
引き分け
青学大 14―12 大東大
東工大 20―9 芝工大
茨城大 9―8 大東大
防衛大 20―18 関東学院大
関東学院大21―15 専修大
大東大 15―14 東工大
青学大 27―12 芝工大
防衛大 23―17 茨城大
【順位】①茨城大5勝1敗1分②大東文化大5勝2敗③防衛大5勝2敗④関東学院大4勝2敗1分⑤青山学院大4勝2敗1分⑥専修大1勝4敗2分⑦東京工業大1勝6敗⑧芝浦工業大1分6敗（2・3、4・5位は両チームの対戦成績で決定）

▽男子4部
一橋大 17―6 上智大
武蔵工大 11―11 千葉工大
引き分け
横国大 12―10 東大
東洋大 13―10 横市大
東大 21―14 横市大
一橋大 15―8 横国大
上智大 21―11 千葉工大
東大 15―10 上智大
東洋大 18―16 一橋大
横国大 17―15 東洋大
上智大 18―11 東洋大
横国大 22―11 千葉工大
一橋大 14―6 武蔵工大
東大 14―13 武蔵工大
上智大 12―12 横国大
引き分け
千葉工大 18―14 東洋大
横市大 12―9 一橋大
横国大 24―9 武蔵工大
東大 23―8 千葉工大
上智大 17―13 武蔵工大
（29ページへ続く）



21e INTERNATIONALE SLAGERSVAKWEDSTRIJD
19 76
UTRECHT

スコアメモ ～各地学生53年秋季リーグ～

関東
（27ページから続く）

横市大 13—13 横国大
引き分け
一橋大 24—10 千葉工大
東大 24—18 東洋大

（このほかの5試合はスコア不明、順位は次のとおり）

【順位】①上智大②横浜国大③東大④一橋大⑤東洋大⑥横浜市大⑦武蔵工大⑧千葉工大

▽男子5部

武蔵大 19—12 東経大
神奈川大 13—10 東農大
千葉大 13—10 埼玉大
都留大 22—11 理科大
理科大 19—9 神奈川大
東農大 21—9 千葉大
東経大 16—13 埼玉大
東経大 14—10 東農大
武蔵大 24—20 都留大
武蔵大 21—20 千葉大
神奈川大 17—17 都留大
引き分け
埼玉大 15—8 理科大
武蔵大 19—13 東農大
理科大 13—9 千葉大
東経大 16—13 都留大
東経大 18—14 理科大
武蔵大 17—15 埼玉大
千葉大 20—13 神奈川大
都留大 18—12 東農大
東経大 14—13 神奈川大
理科大 20—10 武蔵大
都留大 21—20 千葉大
埼玉大 9—9 東農大
引き分け
理科大 21—15 東農大
千葉大 15—11 東経大
武蔵大 23—21 神奈川大
埼玉大 17—12 都留大
埼玉大 23—19 神奈川大

【順位】①6勝1敗②東京経済大5勝2敗③東京理科大4勝3敗④埼玉大4勝3敗⑤都留文化大3勝4敗⑥千葉大3勝4敗⑦神奈川大2勝5敗⑧東京農大1勝6敗（3 4位、5・6位は両チームの対戦成績による）

▽男子6部

亜大 22—20 日工大
拓大 15—13 明学大
都立大 15—5 和光大
千商大 11—10 創価大
文教大 24—20 成蹊大
文教大 不戦勝 明学大
亜大 不戦勝 和光大
成蹊大 不戦勝 千商大
拓大 13—12 創価大
日工大 26—8 独協大
成蹊大 21—13 明学大
亜大 13—11 都立大
工芸大 不戦勝 和光大
都立大 14—6 工芸大
創価大 18—17 文教大
千商大 13—12 拓大
文教大 17—10 千商大
都立大 25—10 独協大
亜大 27—24 工芸大
日工大 31—11 和光大
拓大 19—13 成蹊大
日工大 13—10 工芸大
独協大 22—19 亜大
明学大 18—8 千商大
拓大 18—13 大教大
工芸大 14—7 独協大
創価大 20—14 明学大
都立大 不戦勝 日工大
独協大 不戦勝 和光大
創価大 15—15 成蹊大
引き分け

—順位決定戦—

明学大 不戦勝 和光大
独協大 不戦勝 千商大
創価大 不戦勝 工芸大
成蹊大 不明 日工大
文教大 不戦勝 都立大
拓大 22—16 亜大

【順位】①拓大②亜細亜大③文教大④都立大⑤日本工大⑥成蹊大⑦創価大⑧工芸大⑨独協大⑩千葉商大⑪明治学院大⑫和光大

▽女子2部

青学大 5—4 横国大
都留大 14—6 文教大
東海大 不戦勝 千葉大
明徳大 7—5 法政大
文教大 9—7 明徳大
学習大 不戦勝 東海大
文教大 10—7 青学大
都留大 14—1 横国大
千葉大 15—4 法大
青学大 12—0 東海大
明徳大 9—6 学習大
都留大 18—3 法大
文教大 7—6 千葉大
文教大 13—1 学習大
都留大 14—5 明徳大
青学大 7—1 法政大
千葉大 9—6 横国大
法大 9—7 学習大
都留大 20—12 東海大
文教大 12—2 法大
横国大 13—8 明徳大
青学大 7—5 学習大
東海大 11—11 文教大
引き分け
都留大 19—4 学習大
東海大 10—3 法大
青学大 8—5 千葉大
横国大 9—0 法大
青学大 11—6 明徳大
都留大 22—5 千葉大
学習大 9—5 千葉大
横国大 9—3 学習大
都留大 12—3 青学大
横国大 7—6 文教大
横国大 不明 東海大
千葉大 不明 明徳大
明徳大 不明 東海大

【順位】①都留文科大8勝②青山学院大6勝2敗③文教大5勝2敗1分④横浜国立大4勝3敗1分⑤東海大3勝3敗2分⑥千葉明徳短大3勝5敗⑦学習院大2勝6敗⑧千葉大2勝6敗⑨法政大1勝7敗（7・8位は両者間の対戦成績による）

昭和54年度

競技規則の解釈と説明

一、競技への参加資格（ルール3—3）

(1) 競技開始時に競技場におり、その競技の記録用紙に記名されているプレイヤーであること。

(2) 退場・失格・追放中のプレイヤーでないこと。

(3) 記録用紙に記名されているプレイヤーであって、現在ゲームに出場している7名以外のもの（正規に交替すれば出場資格はあるが、非合法な交替はいけない）。

○ ルール3—1では、1チーム12名のプレイヤーで構成され最高7名のプレイヤーが同時に競技に参加できる。

　従って交替の意図が明らかでなく、7名以上のプレイヤーが競技に参加した時には、そのプレイヤーが記録用紙に記名されていないものでも、退場時間中に競技に参加したプレイヤーと同じように罰せられる。

○ ルール3—3の最後の項は「競技に参加する資格」のないプレイヤーが参加した時の意味の上に上記(3)の場合も含まれる。つまり正規に交替すれば出場資格はあるが、非合法に参加した時は、そのプレイヤーは少なくとも失格させられなければならない。（17—16、18、20）

〔例A〕チームAは、7名のプレイヤーで競技中、交替プレイヤー「A3」が明らかな交替の意図なく競技に参加した。「A3」は8人目のプレイヤーでありしかも何ら反則を犯さなかった。

○ レフェリーの処置

　レフェリータイムをとる。「A3」は失格でチームAは7名のプレイヤーで、チームBのフリースローから競技を開始する。チームAは残り11名で競技をする。

〔例B〕プレイヤー「B8」は、退場中である。90秒後に「B8」またはチームBのプレイヤーが競技に参加して重大な反則を犯し得点のチャンスを妨害した場合

○ レフェリーの処置

　レフェリータイムをとる。「B8」またはチームBのプレイヤーは追放である。そして残り時間1名少ないフィールドプレイヤーで競技する。「B8」の退場時間の残り30秒があるのでチームBから誰れか1名30秒退場させる。これは監督が指名する。したがってチームBは4名のフィールドプレイヤーと1名のゴールキーパーで競技を開始する。しかし30秒後には、5人目のフィールドプレイヤーが出場できる。以後終了まで6名（ゴールキーパー1名、フィールドプレイヤー5名）で競技するチームAにペナルティスローを与える。以上チームBは11名で競技する。

〔例C〕チームが退場者（失格、追放）を出し、少ない数のプレイヤーで競技しているときに不正交替を行った場合は少なくても失格させられる。

　次頁の表はいろいろなケースを現行規則との関連で表にしたもので規則との関連でレフェリーが行うべき処置を示したものである。

二、警　告

○ ルール17—11の（原注）は次のように解釈すべきである。

　レフェリーは同一プレイヤーに1回以上の警告を与えるべきではない。しかしながら実際にはレフェリーが2回イエローカードを示すときもあるが、これは退場を意味しているのであり「警告なのに退場させられる」という公式抗議の理由にはならない。

三、スポーツマンシップに反する行為

　2分間の退場をさせられたプレイヤーがその判定に対し、スポーツマンらしからぬ言動をした場合そのプレイヤーはルール17—20により追放される。

◇競技場にあった場合には追放である。

◇競技場外にあった場合には失格である。

四、チームには必らず1名以上のゴールキーパーを使わねばならない。

　原則としてチームはゴールキーパーなしで競技することは認められない。それは次のことを意味する。

(1) チームに10名以下のプレイヤーしかいない時でも、少なくとも1名はゴールキーパーとして記録用紙に記名されなければならない。

　ゴールキーパーとして記名されたプレイヤーは以後競技にフィールドプレイヤーとして参加してはならない。

(2) ゴールキーパーが退場を受けている間、チームは代りのゴールキーパーを補充してゲームをしなければならない。（17—19）

五、競技時間がなくなりつつある時の罰則

　競技終了（前半終了）のタイムキーパーの笛の直前に起ったすべての反則は、レフェリーの笛がなくともタイムキーパーの笛が反則を示す。

　レフェリーの笛よりタイムキーパーの笛が先行していても適用されるべき規則に従い罰するべきである。しかしこれはあくまでもレフェリーの判断による。（レフェリーの決定、スローの実施および結果はすべて（4—7）の解釈によるべきである。

六、ペナルティスローに対するゴールキーパーの位置

　ゴールキーパーの片足が4mラインの後についている限り、他の片足および腕はラインの前の空間へ動かすことができる。

七、ゴールラインの後

　チームAは得点を入れられたができるだけ早くセンターラインからスローオフしたいと望んだ。しかしチームBの一人がチームAのゴールエリア内で事故の為に倒れていた。

　レフェリーの処置

　レフェリータイムをとり、すみやかに再開できるように処置をする。もしこの時、レフェリーが笛を吹いてスローオフを許したとしても、チームBは5人しか防御することができないという理由でチームAが得点しても認められない

競技に参加する種別	ルール	開始のスロー	他に反則のない場合の罰則	他に反則がある場合の罰則	重大な反則がある場合の罰則
不正交替（初回） 明白な得点のチャンスなし	8—7	フリースロー又はペナルティスロー（G・K）	ペナルティーなし チームに通告	2分間退場	追放 (Exclusion)
不正交替（2回，3回） 明白な得点のチャンスなし	3—7	同　　上	2分間退場		
不正交替（初回） 明白な得点のチャンスあり	3—7	ペナルティースロー	失　格 (disqualification)	2分間退場 および 失　格	
同　上（2回，3回）	3—7	同　　上	2分間退場 および失格※		
参加資格なし （メンバー以外）	3—3	フリースロー又はペナルティースロー	失　　格		
同　　上 （退場中のプレイヤー）※※	3—3	同　　上	失　　格		
同　　上 （同チームのプレイヤー）※※	3—3	同　　上	失　　格		
交替の意図なし （8人目のプレイヤー）	3—1 3—3 3—6	同　　上	失　　格		※※※

※　チームが1名削減で2分間は他のプレイヤーを退場させる。
※※　退場時間の残りが終るまで他のもう1人のプレイヤーを退場させる.
※※※　残り時間を少ない削減されたプレイヤーで競技する。

スローオフを再度行わせることになる。

八、2名のプレイヤーの衝突

○ 反則なしで、両チームのプレイヤーが衝突し、ボールがその下にとどまった時は、レフェリースローで開始する。

○ 同チームのプレイヤーが反則なしで衝突し、ボールがその下にとどまった時は、3秒後にパスがなされなければ相手チームにフリースローが与えられる。

九、キーパースローおよびゴールスロー

ゴールキーパーがキーパースローまたはゴールスローをしようとしているとき非合法な方法によって、相手ゴールキーパーを防害したプレイヤーは2分間の退場を与える。

一〇、ゴールエリア内のプレイヤーについて

シュートまたはパスをした後、相手チームのゴールエリア内に着地したプレイヤーは、相手チームを防害することなく、最短距離をすぐにエリアをでて競技に参加することができる。

ペナルティースローを行った後のプレイヤーにも適用される。

一一、フリースローの実施

原則としてボールがグランド上にあるときは、レフェリーは、フリースロー開始の笛を吹いてはならない。正しい位置にいるが、ボールを保持しない時は、スローを行うよう命じなければならない。命令に従わない場合は、ボールの近くに立っているプレイヤーに警告を与える。くり返されるならば2分間の退場を与える。

一二、競技終了（前半終了）

公示時計が使われている場合には、タイムキーパーが競技終了の笛を吹いたときに、その時計は止められなければならない。

◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇　◇

おわび

機関紙「ハンドボール」の発刊が遅れを生じ、読者、広告提供各社にごめいわくをおかけしていることを、深くお詫びいたします。とくに、ここに掲載した「競技規則の解釈と説明」が、お手元に届くのが遅れ、全国の審判、プレーヤー各位にごめいわくをおかけしました。

（編集委員会）

資料 歴代ナショナルチーム ＜名簿＞

☆……日本協会が、国際行事の有無にかかわらず「ナショナルチーム」を"常設"し、年度毎に発表したのは、昭和41年度からである。女子は、男子より定着が遅れた。

☆……昭和41年度……☆

【男子】（28名）

▽GK
福本　弘（大崎電気）
尾形　譲（立　大）
高橋　邦男（埼玉教員）
竹下　洋一（中　大）

▽FP
近藤　信行（芝浦工大）
関根　邦夫（芝浦工大）
近森　克彦（芝浦工大）
山田　透（芝浦工大）
竹野　奉昭（大崎電気）
北村　尚英（大崎電気）
井上　素行（大崎電気）
金田　純男（大崎電気）
安達　精太（全立大）
江名　英彦（全立大）
木野　実（立　大）
北村　文雄（立　大）
林　政弘（同志社大）
飯田　誠行（同志社大）
吉金　勇（常盤工業）
青木義男（大阪イーグルス）
飯端　寿昭（関　学）
青木孝次（千代田印刷機製造）
池田　鉄哉（全神奈川）
越智　節生（宗形製作所）
平岩　忠（関　大）
北井　晴次（埼玉教員）
大西　武三（東京教大）
高橋　実（桜丘会）

☆……昭和42年度……☆

【男子】（15名）

▽GK
福本　弘（大崎電気）
島崎政治（大阪イーグルス）
上野　清（東京教大）

▽FP
竹野　奉昭（大崎電気）
井上　素行（大崎電気）
西村　功（大崎電気）
金田　純男（大崎電気）
近藤　信行（大崎電気）
加藤　建文（大崎電気）
木野　実（立　大）
北村　文雄（立　大）
平岡　秀雄（東京教大）
北井　晴次（埼玉教員）
近森　克彦（芝浦工大）
樫塚　正一（日体大）

【女子】（15名）

▽GK
渡辺美智子（田村紡）
川崎　幸子（大崎電気）
小原名苗（大洋デパート）

▽FP
種村　好子（田村紡）
渡辺　好子（田村紡）
水谷　秀子（田村紡）
小林　五子（田村紡）
清水　一子（田村紡）
長谷川邦子（田村紡）
新保郁子（大洋デパート）
今村マサ江（大洋デパート）
渡辺須和子（大洋デパート）
垂水秀代（大洋デパート）
早川　清美（大崎電気）
鈴木　功子（大崎電気）

☆……昭和43年度……☆

【男子】（40名）

▽GK
福本　弘（大崎電気）
下里　敏彦（大崎電気）
川口宗一郎（立　大）
本田　洋（日体大）
尾形　譲（三　景）
綿貫　敏雄（早　大）

▽FP
井上　素行（大崎電気）
竹野　奉昭（大崎電気）
西村　功（大崎電気）
近藤　信行（大崎電気）
飯田　誠行（大崎電気）
近森　克彦（大崎電気）
野田　清（立　大）
東　一敏（立　大）
小野口正二郎（立　大）
有永　修二（立　大）
早川　清孝（日体大）
井上　亮一（日体大）
藤中　憲二（日体大）
谷藤　勝美（日体大）
斉藤　光男（日体大）
森　宗春（芝浦工大）
新実　俊夫（芝浦工大）
明石　雄次（芝浦工大）
木野　実（全立大）
北村　文雄（全立大）
森山　清（中　大）
植木　一久（中　大）
松浦　末義（同志社大）
中井　武三（同志社大）
江名　英彦（三　景）
加藤　久勝（住化菊本）
市原　則之（全広島）
北井　晴次（埼玉教員）
飯端　寿昭（三国丘ク）
福井稔（大阪イーグルス）
平岡　秀雄（東京教大）
大山　高英（法　大）
鈴木　幸男（早　大）
藤井　良彦（明　大）

【女子】（16名）

▽GK
渡辺美智子（田村紡）
小原名苗（大洋デパート）
川崎　幸子（大崎電気）

▽FP
種村　好子（田村紡）
小林　五子（田村紡）
水谷　秀子（田村紡）
渡辺　好子（田村紡）
清水　一子（田村紡）
長谷川邦子（田村紡）
甲村加代子（田村紡）
加藤　井子（大崎電気）
早川　清美（大崎電気）
鈴木　功子（大崎電気）
新保郁子（大洋デパート）
垂水秀代（大洋デパート）
蓮見二三恵（三菱鉛筆）

☆……昭和44年度……☆

【男子】（17名）

▽GK
本田　洋（日体大）
福本　弘（大崎電気）
下里　敏彦（大崎電気）

▽FP
竹野　奉昭（大崎電気）
井上　素行（大崎電気）
近藤　信行（大崎電気）
飯田　誠行（大崎電気）
近森　克彦（大崎電気）
野田　清（全立大）
東　一敏（全立大）
有永　修二（全立大）
木野　実（全立大）
藤中　憲二（日体大）
早川　清孝（日体大）
北井　晴次（埼玉教員）
平岡　秀雄（東京教大）
中井　武三（同志社大）

【男子B】（23名）

▽GK
綿貫　敏彦（東京教員）
川口宗一郎（全立大）
尾形　譲（三　景）

▽FP
森　宗春（芝浦工大）
新実　俊夫（芝浦工大）
明石　雄次（芝浦工大）
谷藤　勝美（日体大）
斉藤　光男（日体大）
井上　亮一（日体大）
森山　清（中大OB）
福井稔（大阪イーグルス）
植木　一久（中　大）
江名　英彦（三　景）
西村　功（大崎電気）
加藤　久勝（住化菊本）
飯端　寿昭（三国丘ク）
市原則之（全広島商大）
北村　文雄（日本発条）
大山　高英（日進商会）
小野口正二郎（立　大）

松浦末義(同志社大OB)
藤井　良彦(明　大)
鈴木　幸男(早　大)

【女子】
選衡行われず。

☆……昭和45年度……☆

【男子】(19名)

▽GK
本田　洋(日体大)
下里　敏彦(大崎電気)
大村　久(日体大)

▽FP
竹野　奉昭(大崎電気)
近藤　信行(大崎電気)
飯田　誠行(大崎電気)
東　一敏(大崎電気)
平岡　秀雄(大崎電気)
木野　実(湧永薬品)
早川　清孝(湧永薬品)
野田　清(大同製鋼)
藤中　憲二(大同製鋼)
斉藤　光男(日体大)
中井　武三(同志社大)
有永　修二(立　大)
新実　俊夫(芝浦工大)
花輪　博(中　大)
□江名　英彦(三　景)
□近森　克彦(大崎電気)

(注)□印は発表後辞退を示す。

【女子】(第5回世界選手権候補選手として発表された名簿・25名)

▽GK
小原名苗(大洋デパート)
長岡　範子(東京重機)
北岡　千賀(中京女大)
坂野　カヨ(東女体大)

▽FP
垂水秀代(大洋デパート)
渡辺須和子(大洋デパート)
枝尾清女(大洋デパート)
三宅美智子(大洋デパート)
米恵美子(大洋デパート)
島田夏枝(大洋デパート)
村中佐千子(大洋デパート)
蔵田照美(大洋デパート)
蓮見二三恵(日本ビクター)
江川ミサ子(日本ビクター)
八重樫優子(日本ビクター)
木幡　和子(大崎電気)
寺尾由美子(大崎電気)
三浦　朝子(大崎電気)
滝口　治代(東京重機)
古佐原ひろ子(東京重機)
牧野　涼子(東京重機)
渡辺　信子(田村紡)
三毛　直子(田村紡)
永田美代子(日体大)
高橋　恭子(東女体大)

☆……昭和46年度……☆

【男子】(17名)

▽GK
本田　洋(日体大)
大村　久(日体大)
下里　敏彦(大崎電気)

▽FP
近藤　信行(大崎電気)
飯田　誠行(大崎電気)
東　一敏(大崎電気)
木野　実(湧永薬品)
早川　清孝(湧永薬品)
野田　清(大同製鋼)
藤中　憲二(大同製鋼)
斉藤　光男(日体大)
氷海　正行(日体大)
平岡秀雄(東京教員ク)
有永　修二(立　大)
中井　武三(同志社大)
新実　俊夫(芝浦工大)
花輪　博(中　大)

【女子】(14名)

▽GK
小原名苗(大洋デパート)
北岡　千賀(愛知ク)

▽FP
枝尾清女(大洋デパート)
垂水秀代(大洋デパート)
三宅美智子(大洋デパート)
米恵美子(大洋デパート)
渡辺須和子(大洋デパート)
島田夏枝(大洋デパート)
滝口　治代(東京重機)
牧野　涼子(東京重機)
古佐原ひろ子(東京重機)
寺尾由美子(大崎電気)
三浦　朝子(大崎電気)
三毛　直子(田村紡)

☆……昭和47年度……☆

【男子】(25名)

▽GK
下里　敏彦(大崎電気)
高橋　誠(日体大)
本田洋(大阪イーグルス)
馬渕　豊明(立　大)
大村　久(全日体大)

▽FP
近森　克彦(大崎電気)
飯田　誠行(大崎電気)
東　一敏(大崎電気)
野田　清(大同製鋼)
中井　武三(大同製鋼)
藤中　憲二(大同製鋼)
氷海　正行(日体大)
松岡　猛(日体大)
浅原　俊治(日体大)
佐藤　要二(中　大)
佐々木健一(中　大)
花輪　博(中　大)
木野　実(湧永薬品)
早川　清孝(湧永薬品)
新実　俊夫(芝浦工大)
大江　隆夫(芝浦工大)
有永　修二(東京海上)
斉藤光男(群馬教員ク)
高梨　豊(三　景)
荒井　正人(法　大)

【女子】(30名)

▽GK
小原名苗(大洋デパート)
北岡千賀(愛知教員ク)
長岡　範子(東京重機)
佐藤玲子(ブラザー工業)
和田　祥子(大崎電気)
大工原和子(日体大)

▽FP
垂水秀代(大洋デパート)
米恵美子(大洋デパート)
島田夏枝(大洋デパート)
釼あつ子(大洋デパート)
古佐原ひろ子(東京重機)
牧野　涼子(東京重機)
葛西　則子(東京重機)
市川　晴美(東京重機)
村上　朋美(東京重機)
三毛　直子(田村紡)
広森　和代(田村紡)
辻　敏子(田村紡)
蓮見二三恵(日本ビクター)
八重樫優子(日本ビクター)
谷沢滝子(日本ビクター)
嶋田ひろみ(日体大)
赤堀千賀子(日体大)
木村　正子(日体大)

藤浪泰子(ブラザー工業)
鳥居君子(ブラザー工業)
佐藤あや子(大崎電気)
岩井　悦子(大崎電気)
伊賀かほる(東北ムネカタ)
垂正房万里子(甲子園短大)

【男子ジュニア(ヤング全日本)】
▽GK　柳川　清(大同製鋼)
福井　秀人(中京大)
柴田　正章(法　大)
斉藤将一郎(日体大)
小松伊佐夫(湯沢高)
▽FP　上村　茂(中　大)
藤本　康生(中　大)
大熊　昌己(中　大)
細江　守男(日体大)
喜井　美雄(日体大)
菅野　肇(日体大)
林　恒雄(大崎電気)
沢田　富男(大崎電気)
穂積　豊彦(大阪経大)
津川　昭(大阪経大)
蒲生晴明(中大附属高)
佐藤恭政(中大附属高)
菅　広明(湧永薬品)
藤井　康之(湧永薬品)
中水流和則(海上自鹿屋)
柳川　実(大同製鋼)
牧野　彰文(同志社大)
福井十志男(京都産大)
夏目　真治(中京大)
中村　博之(大阪体大)
菊池　悟(早　大)
村田　幸男(法　大)
大島隆志(下関中央工高)

梅林　広(清水市商高)
関　健三(笠間高)
(注)このほか中学生3名がリストアップされたが氏名は未発表。

☆……昭和48年度……☆

【男子】(13名)
▽GK　柳川　清(大同製鋼)
本田洋(大阪イーグルス)
▽FP　中井　武三(大同製鋼)
藤中　憲二(大同製鋼)
花輪　博(大同製鋼)
柳川　実(大同製鋼)
木野　実(湧永薬品)
佐藤要二(本田技研鈴鹿)
大江　隆夫(三菱レ大竹)
夏目　真治(中京大)
菊池　悟(早　大)
村田　幸男(法　大)
蒲生　晴明(中　大)

【男子B】(12名)
▽GK　柴田　正章(法　大)
斉藤将一郎(日体大)
▽FP　菅野　肇(日体大)
斉藤　幸司(日体大)
津川　昭(大阪経大)
穂積　豊彦(大阪経大)
松原　光三(大同製鋼)
田上敬三(本田技研鈴鹿)
柳　隆司(法　大)
大熊　昌己(中　大)
脇若　正二(早　大)
中村　博之(大阪体大)

【女子】(24名)
▽GK　小原名苗(大洋デパート)
和田　祥子(大崎電気)
大工原和子(前橋ピジョンズ)
久保　徳子(田村紡)
鈴木はる子(日本ビクター)
▽FP　垂水秀代(大洋デパート)
米恵美子(大洋デパート)
島田夏枝(大洋デパート)
蔵田照美(大洋デパート)
山下恵美子(大洋デパート)
古佐原ひろ子(東京重機)
牧野　涼子(東京重機)
市川　千晴(東京重機)
池田二三恵(日本ビクター)
谷沢竜子(日本ビクター)
高野晴子(日本ビクター)
佐藤あや子(大崎電気)
岩井　悦子(大崎電気)
鳥居君子(ブラザー工業)
宮崎桂子(ブラザー工業)
三毛　直子(田村紡)
木村　正子(日立栃木)
嶋田ひろみ(全千葉)
畑中多恵子(東京教大)

【男子ヤング】
▽GK　小松伊佐夫(大崎電気)
市川孝(本田技研鈴鹿)
三田祥生(日新製鋼呉)
酒谷　信彦(金沢工大)
▽FP　上村　茂(中　大)
藤本　康生(中　大)
関　健三(中　大)
丸井　圭仁(大阪体大)
松岡　良朔(大阪体大)
藤井　康之(湧永薬品)
田中佑次郎(湧永薬品)
由利　淳二(湯沢高)
麻生　武志(湯沢高)
岡本　貞志(早　大)
福井十志男(京都産大)
柳原　雄二(芝浦工大)
岸見　主彦(中京大)
吉田　義憲(日新製鋼呉)
布施雅夫(セントラル自動車)
平野　稔(海上自下総)
梅林　広(蒲原ク)
佐藤　恭政(中大附属高)
生駒　靖夫(生駒高)
鈴木　康正(名城大附高)
泉　賀都彦(日体大)

☆……昭和49年度……☆

【男子】(12名)
▽GK　本田洋(大阪イーグルス)
斉藤将一郎(日体大)
▽FP　藤中　憲二(大同製鋼)
中井　武三(大同製鋼)
松原　光三(大同製鋼)
木野　実(湧永薬品)
佐藤要二(本田技研鈴鹿)
有永　修二(大阪福島ク)
飯田　誠行(大崎電気)
菊池　悟(早　大)
村田　幸男(法　大)
蒲生　晴明(中　大)

【男子B】(9名)
▽GK　柴田　正章(法　大)
▽FP　花輪　博(大同製鋼)
柳川　実(大同製鋼)
津川　昭(湧永薬品)
穂積　豊彦(湧永薬品)
新実俊夫(本田技研鈴鹿)
佐々木健一(三　景)
平野　稔(海上自下総)
斉藤　幸司(大崎電気)

【女子】(20名)
▽GK　和田　祥子(立石電機)
鈴木はる子(日本ビクター)
久保　徳子(田村紡)
渡辺久子(日本ビクター)
▽FP　島田　夏枝(立石電機)
蔵田　照美(立石電機)
山下恵美子(立石電機)
紀野奈々美(立石電機)
加藤美起子(日本ビクター)
穂積美保子(日本ビクター)
額賀美恵子(日本ビクター)
高野晴子(日本ビクター)
古佐原ひろ子(東京重機)
菊地　春美(東京重機)
松下　仁美(田村紡)
河田　栄子(田村紡)
□鳥居君子(ブラザー工業)
有賀とも子(東北ムネカタ)
大場　裕子(大崎電気)
□坂本　陽子(日体大)
(注)□印は発表後辞退を示す。

【男子ヤング】
▽GK　小松伊佐夫(中　大)
酒谷　信彦(金沢工大)
▽FP　藤本　康生(中　大)
関　健三(中　大)
大熊　昌己(中　大)
佐藤　恭政(中　大)
丸井　圭仁(大阪体大)
松岡　良朔(大阪体大)
岸見　主彦(中京大)
菅野　肇(日体大)

柳原　雄二（芝浦工大）
生駒　靖夫（京都産大）
布施雅夫（セントラル自動車）
鈴木　康正（三陽商会）
由利　淳二（湯沢高）
泉　賀都彦（岩国工高）

☆……昭和50年度……☆

【男子】（19名）

▽GK 本田洋（大阪イーグルス）
柴田　正章（法　大）
斉藤将一郎（日体大）
▽FP 藤中　憲二（大同製鋼）
中井　武三（大同製鋼）
花輪　博（大同製鋼）
柳川　実（大同製鋼）
松原　光三（大同製鋼）
木野　実（湧永薬品）
津川　昭（湧永薬品）
穂積　豊彦（湧永薬品）
飯田　信行（大崎電気）
佐藤要二（本田技研鈴鹿）
佐々木健一（三　景）
菊池　悟（東京12ch）
平野　稔（海上自下総）
村田　幸男（法　大）
斉藤　幸司（日体大）
蒲生　晴明（中　大）

【女子】（19名）

▽GK 渡辺久子（日本ビクター）
鈴木はる子（日本ビクター）
和田　祥子（立石電機）
久保　徳子（田村紡）
▽FP 島田　夏枝（立石電機）
蔵田　照美（立石電機）
山下恵美子（立石電機）
紀野奈々美（立石電機）
額賀美恵子（日本ビクター）
加藤美起子（日本ビクター）
穂積美保子（日本ビクター）
松下　仁美（田村紡）
河田　栄子（田村紡）
古佐原ひろ子（東京重機）
菊地　春美（東京重機）
大場　裕子（大崎電気）
有賀もと子（東北ムネカタ）
小森久里子（ブラザー工業）
桜庭　郁子（日立栃木）

（注）男子ヤングは特に発表せず。

☆……昭和51年度……☆

【男子】（21名）

▽GK 本田洋（大阪イーグルス）
柴田正章（本田技研鈴鹿）
斉藤将一郎（秋田教員）
▽FP 藤中　憲二（大同製鋼）
中井　武三（大同製鋼）
花輪　博（大同製鋼）
松原　光三（大同製鋼）
柳川　実（大同製鋼）
中本　満明（大同製鋼）
木野　実（湧永薬品）
津川　昭（湧永薬品）
穂積　豊彦（湧永薬品）
佐々木健一（三　景）
村田　幸男（三　景）
飯田　信行（大崎電気）
斉藤　幸司（大崎電気）
大熊　昌己（大崎電気）
佐藤要二（本田技研鈴鹿）
菊池　悟（稲　球　会）
平野　稔（海上自下総）
蒲生　晴明（中　大）

【女子】（12名）

▽GK 和田　祥子（立石電機）
久保　徳子（ジャスコ）
▽FP 島田　夏枝（立石電機）
蔵田　照美（立石電機）
山下恵美子（立石電機）
紀野奈々美（立石電機）
加藤美紀子（日本ビクター）
穂積美保子（日本ビクター）
松下　仁美（ジャスコ）
河田　栄子（ジャスコ）
古佐原ひろ子（東京重機）
小森久里子（ブラザー工業）

（注）男子ヤングは特に発表せず。

☆……昭和52年度……☆

【男子】（18名）

▽GK 柴田正章（本田技研鈴鹿）
福井　秀人（湧永薬品）
須波　雅人（筑　波　大）
井藤　英忠（日　体　大）
▽FP 中井　武三（大同特殊鋼）
花輪　博（大同特殊鋼）
柳川　実（大同特殊鋼）
中本　満明（大同特殊鋼）
蒲生　晴明（大同特殊鋼）
津川　昭（湧永薬品）
穂積　豊彦（湧永薬品）
佐々木健一（三　景）
斉藤　幸司（大崎電気）
佐藤要二（本田技研鈴鹿）
斉藤将一郎（秋田教員）
池ノ上孝司（日　体　大）
□生駒　靖夫（京都産大）
志賀　良弘（大阪体大）

（注）□印は発表後辞退を示す

【女子】（23名）

▽GK 丸山加代子（立石電機）
山本福代（ブラザー工業）
▽FP 加藤美起子（日本ビクター）
穂積美保子（日本ビクター）
斉藤ゆき子（日本ビクター）
小島和子（日本ビクター）
松下　仁美（ジャスコ）
河田　栄子（ジャスコ）
鈴木　洋子（ジャスコ）
木戸ひとみ（北国銀行）
千歩　康子（北国銀行）
中山　和代（北国銀行）
紀野奈々美（立石電機）
池渕　澄江（立石電機）
折口　律子（東京重機）
横山祐美子（東京重機）
藤井日出子（日　体　大）
寺尾真知子（日　体　大）
小森久里子（ブラザー工業）
甲斐恵子（東京女体大）
清水みよ子（東北ムネカタ）
森戸由起子（筑　波　大）
島田さゆり（日立栃木）

（注）男子ヤングは選考されず。

☆……昭和53年度……☆

【男子】（20名）

▽GK▽柴田正章（本田技研鈴鹿）
福井　秀人（湧永薬品）
須波　雅人（筑　波　大）
井藤　英忠（日　体　大）
岡部　大（大崎電気）
▽FP▽中井　武三（大同特殊鋼）
▽花輪　博（大同特殊鋼）

柳川　実(大同特殊鋼)
中本　満明(大同特殊鋼)
蒲生　晴明(大同特殊鋼)
津川　昭(湧永薬品)
穂積　豊彦(湧永薬品)
池ノ上孝司(湧永薬品)
生駒　靖夫(湧永薬品)
山本　伸二(湧永薬品)
斉藤　幸司(大崎電気)
▽佐藤要二(本田技研鈴鹿)
斉藤将一郎(秋田教員)
関　健三(三陽商会)
志賀　良弘(大阪体大)
(注)▽印は上半期活動のあと辞退を示す

【女子】(19名)
▽GK　丸山加代子(立石電機)
山本福代(ブラザー工業)
▽鈴木はる子(日本ビクター)
▽FP　加藤美起子(日本ビクター)
穂積美保子(日本ビクター)
斉藤ゆき子(日本ビクター)
小島和子(日本ビクター)
松下　仁美(ジャスコ)
河田　栄子(ジャスコ)
鈴木　洋子(ジャスコ)
木戸ひとみ(北国銀行)
千歩　康子(北国銀行)
▽小森久里子(ブラザー工業)
▽楠石かずみ(ブラザー工業)
紀野奈々美(立石電機)
▽横山祐美子(東京重機)
▽藤井日出子(日体大OG)
清水みよ子(東北ムネカタ)
島田さゆり(日立栃木)
(注)▽印は上半期活動のあと辞退を示す。

……53年度下半期追加……
▽GK　井村文光子(立石電機)
▽FP　伊藤珠美(日本ビクター)
染谷保子(日本ビクター)
若田貴美子(ジャスコ)
金田　孝子(ジャスコ)
橋ノ口フサ子(立石電機)
桑原　広子(立石電機)
山井マチ子(日立栃木)
吉田　良子(日立栃木)
中川しげみ(ブラザー工業)

【男子ヤング】
▽GK　大畑　孝広(日　大)
原田　昭昌(大崎電気)
▽FP　辻本　孝仁(日体大)
松井　幸嗣(日体大)
滝口　孝之(筑波大)
矢島富士雄(筑波大)
西山　清(筑波大)
田口　長雄(中　大)
猪野　栄一(中　大)
阿部　伸(早　大)
北川　勉(慶　大)
山口　哲史(日　大)
仲田　稔(日　大)
金井　克志(大崎電気)

【女子ヤング】
▽GK　矢部登茂子(ジャスコ)
▽FP　則武美智子(ブラザー工業)
川村豊子(ブラザー工業)
山村政子(ブラザー工業)
植田和子(ブラザー工業)
寺村かすみ(日本ビクター)
高橋千賀子(日本ビクター)
岩城由江(日本ビクター)
辻本　典子(ジャスコ)
山本二三子(ジャスコ)
薮田　典子(立石電機)
姫野五十鈴(立石電機)
水上　清美(日立栃木)
小野瀬智子(日立栃木)
西　典子(大崎電気)
石井美沙子(大崎電気)
八木千津子(北国銀行)
寺西富美枝(東京重機)

【本誌注】「ヤング」の名称は54年度からは「ジュニア」に変更される予定。

【歴代ナショナルチーム監督】(昭和31年以降)
◇男子　荒川清美、高嶋列、村田弘、北川勇喜、竹野奉昭。
◇女子　高嶋列、宇津野年一、山田計、小袋是郎、井薫、鈴木義男池田鉄哉。
(注)ミュンヘン・オリンピックの男子代表チームは、近森克彦選手がコーチ兼任。

ナショナルプレイヤー 公式国際試合出場20傑

○……男子……○

中井	武三	(大　同)	74試合
木野	実	(湧　永)	71
□本田	洋	(イーグ)	64
藤中	憲二	(大　同)	57
佐藤	要二	(本　田)	57
蒲生	晴明	(大　同)	56
花輪	博	(大　同)	54
飯田	誠行	(大　崎)	43
近森	克彦	(大　崎)	39
□柴田	正章	(本　田)	37
柳川	実	(大　同)	36
野田	清	(大　同)	32
菊池	悟	(早大OB)	32
穂積	豊彦	(湧　永)	32
竹野	奉昭	(大　崎)	28
□下里	敏彦	(大　崎)	26
早川	清孝	(イーグ)	24
佐々木	健一	(三　景)	24
斉藤	幸司	(大　崎)	24
近藤	信行	(大　崎)	23
村田	幸男	(三　景)	23
有永	修二	(東京海)	23

○……女子……○

島田	夏枝	(立　石)	40
古佐原	ひろ子	(重機)	40
山下	恵美子	(立　石)	32
蔵田	照美	(立　石)	32
□和田	祥子	(立　石)	31
松下	仁美	(ジ　ャ)	26
加藤	美紀子	(日　ビ)	23
河田	栄子	(ジ　ャ)	23
穂積	美保子	(日　ビ)	22
紀野	奈々美	(立　石)	22
垂水	秀代	(大　洋)	18
米	恵美子	(大　洋)	18
牧野	涼子	(重　機)	18
三毛	直子	(田　村)	18
□小原	名苗	(大　洋)	18
黒川	泰恵	(大　崎)	15
宇井	敬子	(大　崎)	15
□久保	徳子	(ジ　ャ)	14
菊地	晴美	(重　機)	13
小森	久里子	(ブ　ラ)	13

・□印GK
・男女とも54年2月1日現在

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一七一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五十四年一月二十五日印刷 昭和五四年二月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円(年間購読料三千三百円)